

**男女共同参画に関するアンケート
調査結果報告書**

平成18年3月

海 津 市

目次

I 調査の概要

1 調査の概要

1-1 調査の目的	1
1-2 調査の方法	1
1-3 調査の内容	1
1-4 回収結果	1
1-5 調査結果の見方について	2

II 調査回答者の属性

1 調査回答者の属性

1-1 性別	3
1-2 年齢	3
1-3 職業	4
1-4 就労形態	4
1-5 婚姻の状況	5
1-6 共働きの有無	5
1-7 子どもの有無	5
1-8 子どもの人数	6
1-9 家族構成	6
1-10 居住地域	6

III 調査結果の分析

IV 調査結果

1 男女の平等感について

1-1 社会全体の男女の地位評価	11
1-2 各分野の男女の地位評価	12

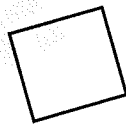
2 家庭生活などについて

2-1 固定的役割分担意識について	14
2-2 家庭における役割分担	15
2-3 子育てについての考え方	17
2-4 自分自身の結婚観	18
2-5 結婚しない理由	19
2-6 男女平等のための学校教育のあり方	20

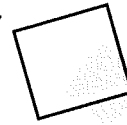
3	社会参加・参画について	
3-1	地域活動への参加状況	21
3-2	男性の地域社会・家庭生活などへの参画の必要性	23
3-3	政策や企画の方針決定における女性の参画	24
4	仕事について	
4-1	就労状況	25
4-2	働いている理由	26
4-3	役職の状況	28
4-4	職場での働きやすさ	29
4-5	職場での男女の格差	30
4-6	農林漁業・商工自営業の家族従業者の職場状況	31
4-7	家族経営協定についての考え方	32
4-8	過去の就労状況	32
4-9	仕事をやめた理由	33
4-10	今後の就労意向	34
4-11	希望する就労形態	35
4-12	女性が仕事を持つことについての考え方	36
4-13	女性が仕事をもち続けていくうえでの障害	38
5	高齢化・福祉について	
5-1	老後の不安	41
5-2	介護は女性の役割との考え方	43
6	配偶者等からの暴力について	
6-1	夫または妻や恋人からの暴力を受けた経験	44
6-2	暴力などを受けた際の相談相手	45
6-3	相談をしなかった理由	46
7	男女共同参画社会について	
7-1	男女共同参画に関する用語の認知度	47
7-2	男女共同参画社会実現のために行政に望むこと	48

資料編

調査票	51
-----	----



I 調査の概要



I 調査の概要

1 調査結果の概要

1-1 調査の目的

本調査は、男女が互いに認め合い支え合いながら、いきいきと暮らすことができる社会の実現をめざし、今後の男女共同参画施策推進の基礎資料とすることを目的として実施しました。

1-2 調査の方法

- (1) 調査地域 海津市内全域
- (2) 調査対象 海津市内に在住する20歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000人(男女各1,000人)
- (4) 抽出方法 無作為抽出(住民基本台帳による)
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査時期 平成17年12月

1-3 調査の内容

- (1) 調査回答者の属性
- (2) 男女の平等感について
- (3) 家庭生活などについて
- (4) 社会参加・参画について
- (5) 仕事について
- (6) 高齢化・福祉について
- (7) 配偶者等からの暴力について
- (8) 男女共同参画社会について

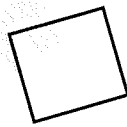
1-4 回収結果

配布数	回収数			未回収
		有効	無効	
2,000	872	871	1	1,128
100.0%	43.6%	43.6%	0.0%	56.4%

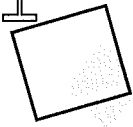
※白紙票は無効とした。

1－5 調査結果（表・グラフ）の見方について

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。
そのためパーセントの合計が100にならないこともあります。
- (2) 基数となるべき実数は「件数」として掲載しました。したがって比率は、件数を100%として算出しています。また、全体数と男女計が一致しませんが、これは性別不明な回答があったためです。
- (3) 複数回答が可能な質問の場合は、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%なのかという見方をしました。そのため、各項目の比率を合計しても100%にはなりません。
- (4) 本報告書中の表、グラフ等の見出し及び文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合があります。



Ⅱ 調査回答者の属性

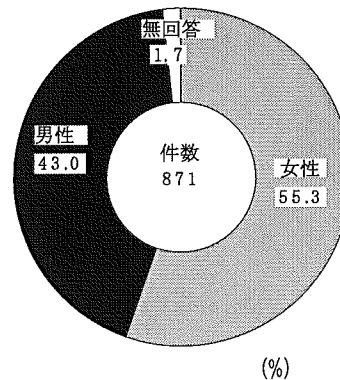


Ⅱ 調査回答者の属性

1 調査回答者の属性

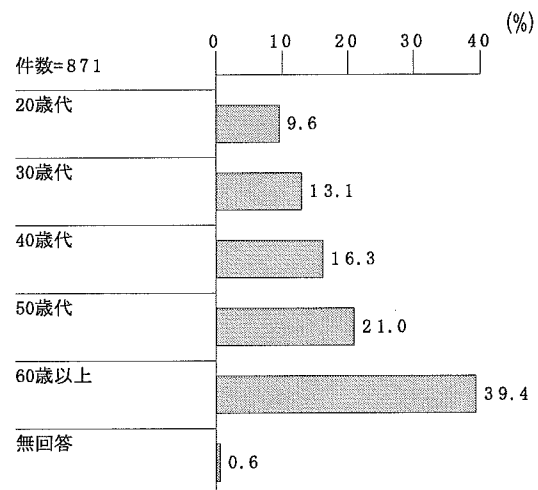
1-1 性別

- 調査回答者の性別は、「女性」が55.3%、「男性」が43.0%となっており、女性が多くなっている。



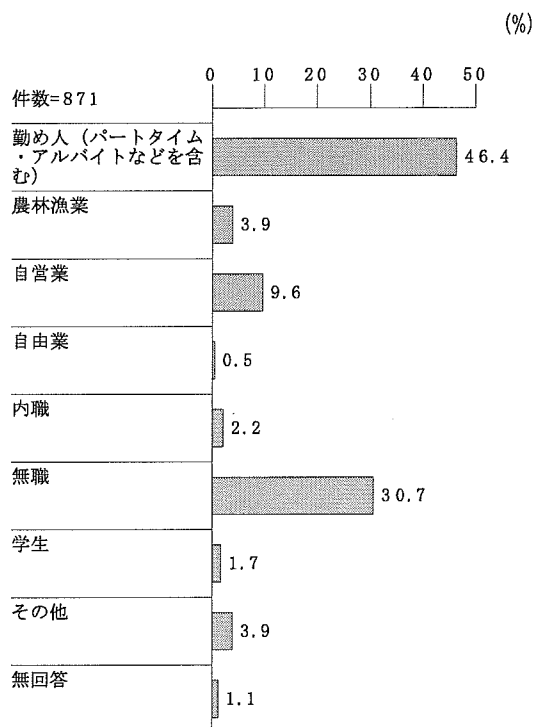
1-2 年齢

- 調査回答者の年齢構成をみると、「60歳以上」が39.4%で最も多く、次いで「50歳代」が21.0%で続いている。一方、「20歳代」が9.6%で最も少なくなっている。



1-3 職業

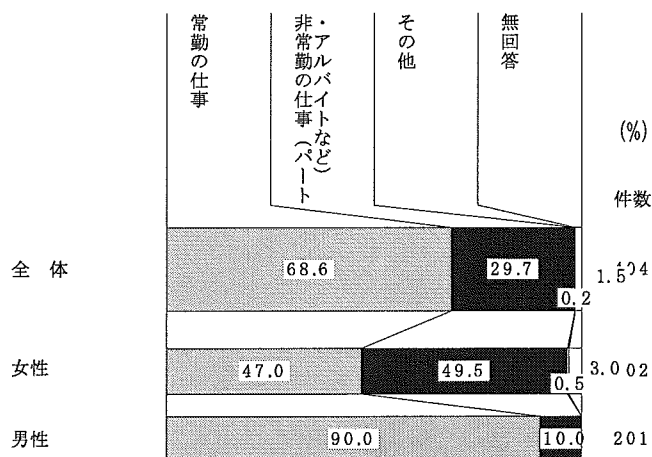
- 職業については、「勤め人」が46.4%で最も多く、次いで「無職」が30.7%となっている。



1-4 就労形態

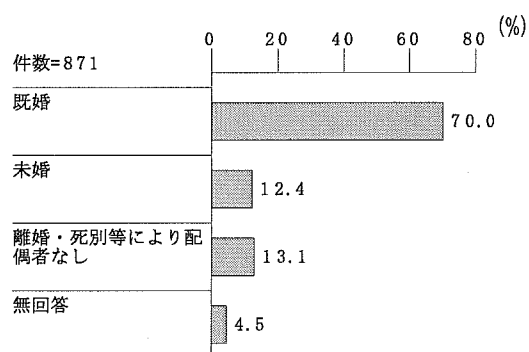
- 勤め人の勤務形態は、「常勤の仕事」が68.6%、「非常勤の仕事」が29.7%となっている。

- 性別でみると、「常勤の仕事」は、男性では9割を占めているが、女性は約5割となっている。「非常勤の仕事」は、女性が49.5%と多くなっている。



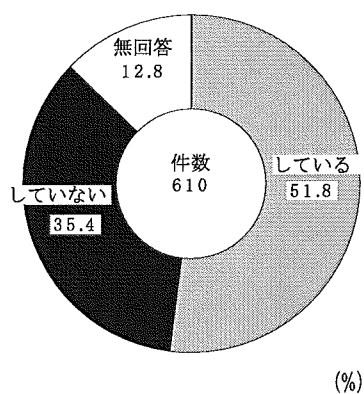
1-5 婚姻の状況

- 婚姻の状況を見ると、「既婚」が70.0%、「未婚」が12.4%、「離婚・死別等により配偶者なし」が13.1%となっている。



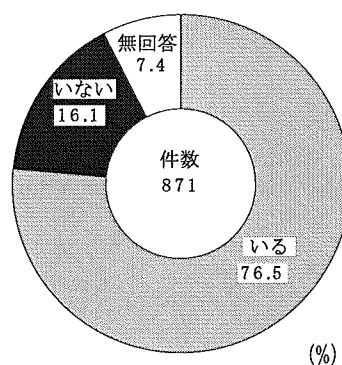
1-6 共働きの有無

- 既婚者のうち、共働きを「している」人は51.8%、共働きを「していない」人は35.4%で、共働きを「している」人が約半数を占めている。



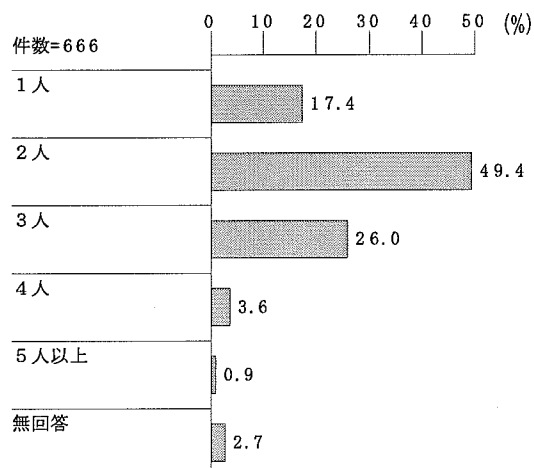
1-7 子どもの有無

- 子どもの有無は、「いる」人が76.5%、「いない」人が16.1%となっている。



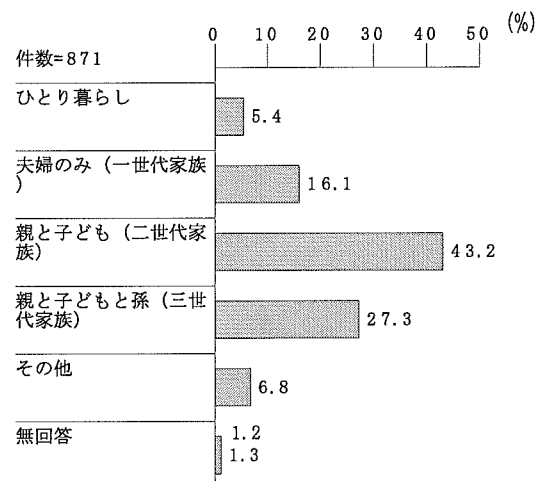
1-8 子どもの人数

- 子どもがいる人の子どもの数は、「2人」が49.4%と最も多くなっており、次いで「3人」が26.0%、「1人」が17.4%となっている。



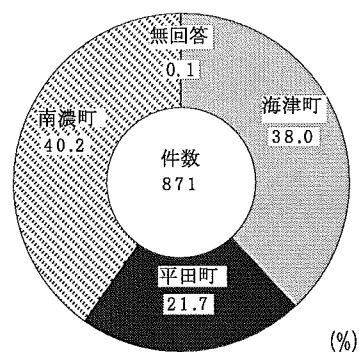
1-9 家族構成

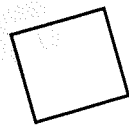
- 家族構成は、「親と子ども（二世世代家族）」が43.2%と最も多く、これに次いで多いのが「親と子どもと孫（三世世代家族）」が27.3%、「夫婦のみ（一世世代家族）」が16.1%となっている。



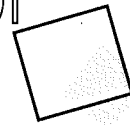
1-10 居住地域

- 住んでいる地域は、「南濃町」が40.2%と最も多く、次いで「海津町」が38.0%、「平田町」が21.7%となっている。





Ⅲ 調査結果の分析



Ⅲ 調査結果の分析

1 男女の平等感について

社会全体でみた場合の男女の地位については、“男性が優遇されている”と評価する人は74.4%と多くみられ、“女性が優遇されている”と評価する人は、5.2%にとどまっている。

分野別の男女の地位については、「しきたりや習慣」、「職場」、「家庭生活」において“男性が優遇されている”と評価する人が多くみられる。

2 家庭生活などについて

「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担については、“そう思う”（肯定的）と40.2%の人が答え、一方、“そうは思わない”（否定的）人は31.0%となり、肯定的な人が多くなっている。

性別でみると、否定的な人は女性に多く、逆に肯定的な人は男性に多くなっている。

性・年代別でみると、女性50歳代以下と男性30歳代では肯定的な人よりも否定的な人が多くなっている。

家事分担の現状については、いずれの項目についても「主として妻」と答えた人が多く、共働きをしている、していないにかかわらず、「主として妻」といった家庭が多くなっている。

子育てについての考え方は、「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず個性を尊重するのがよい」と答えた人が、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」を上回っている。

結婚していない人の、結婚に対する考え方は、「もう少し仕事や勉強などをしてからいずれ結婚したい」が最も多く、次いで「結婚したいと思っているがまだよい相手にめぐりあわない」となっている。

結婚するつもりはない理由は、「結婚の必要性を感じないから」が最も多く、次いで「今の自由や気楽さを失いたくないから」が続いている。

男女平等の人間関係をつくるために、学校教育の場でどのようなことに力を入れるとよいかについては、「男女の別なく能力を生かせるよう諸活動を充実する」が最も多く、次いで「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」となっている。

3 社会参加・参画について

仕事・家庭生活・地域活動の関係において、現在の状況は、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させている」が女性では最も多く、男性は「家庭生活・地域活動にも携わるがあくまで仕事を優先させている」が最も多い。「仕事にも携わるが家庭生活または地域活動を優先させている」「仕事よりも家庭生活または地域活動に専念している」も男女差が大きい。

「男性はもっと地域社会の活動や家庭生活における活動に参画する必要がある」という考えに対し、男女とも“そう思う”（肯定的）が6割を超えている。

政策や企画の方針を決める際に女性の意見をもっと反映するようにしたほうがよいかについては、“そう思う”は、男性（60.4%）よりも女性（78.2%）に多くみられる。

4 仕事について

就労状況は、仕事を「している」人は女性が60.2%、男性が75.4%となっている。

仕事をしている理由は、女性は「家計の補助のため」、男性は、「生計を維持するため」が最も多い。

役職に就いているかについては、「はい」（役職に就いている）と答えた人は、男性41.5%に対して、女性は11.7%である。

女性にとって働きやすい職場であるかどうかについては、“女性にとって働きやすい”は50.3%と半数を超える。

職場での男女差について、「そう思う」と答えた人をみると、「お茶くみなどの雑用は女性がすることが多い」が最も多く、これに「女性は昇進・昇格が遅くなかなか管理職につけない」「同期や、同年齢で入社した男性と賃金や昇格の差がある」「女性は男性より教育訓練を受ける機会や出張等の機会が少ない」と続いている。

農林漁業、商工自営業で家族従業者として働いている人の職場の状況をみると、「経営方針に意見が いえる」「給与等の報酬を受けている」で「はい」と答えた人が6割以上を占めている。

家族経営協定についての考え方は、「家族間で話し合いをすればよいので家族経営協定は必要ない」が最も多い。

仕事をしていない人の8割以上の人は就労経験があると答えている。

仕事をやめた理由は、男女ともに「定年になったから」が最も多いが男性は女性の2倍以上の割合となっている。「結婚のため」「出産・育児のため」「親や病気の家族の介護をするため」は女性に多くみられる。

今後の就労意向については、「働きたい」と答えた人が35.5%、「働きたくない」が37.7%となっている。

希望する就労形態は、男性は「常勤の仕事」、女性は「パート・アルバイトなど」が最も多い。

女性が仕事を持つことについての考え方は、男女ともに「子どもができれば仕事をやめ大きくなったら再び仕事をもつのがよい」といった“中断再就職型”が最も多く、これに「子どもができてずっと仕事を続けるのがよい」といった“職業継続型”が続いている。

女性が仕事をもち続けていくうえで障害と思うことは、男女ともに「家事や育児との両立がむずかしい」が最も多く、次いで「育児休業や介護休業などの制度が不十分である」「高齢者などの介護との両立がむずかしい」が続いている。

5 高齢化・福祉について

老後の不安は、男女ともに「自分や配偶者が寝たきりや病気になったときのこと」が最も多く、次いで「生活費のこと」「自分の健康のこと」「配偶者に先立たれること」が続いている。

一般的に、介護は女性の役割となりがちなことについては、男女とも「改善すべきである」と「問題はあがるがやむをえない」の割合が拮抗している。

6 配偶者等からの暴力について

配偶者等からの暴力などを受けた経験は、“受けたことがある”人は、男性が約1割、女性が約3割となっている。

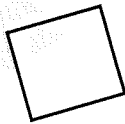
暴力を受けた際の相談の有無については、「どこ（誰）にも相談しなかった」が最も多く、「相談した」人は男性（28.9%）よりも女性（34.9%）に多くみられる。

どこ（誰）にも相談しなかった理由は、男女ともに「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すればなんとかやっていけると思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」が多い。また男性では、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」も多い。

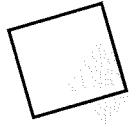
7 男女共同参画社会について

用語については、「男女共同参画社会基本法」14.3%、「DV防止法」33.2%が「知っている」と回答している。

男女共同参画社会を実現するために行政に望むことは、女性は「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する」、男性は「男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する」が最も多くなっている。



IV 調查結果



IV 調査結果

1 男女の平等感について

1-1 社会全体の男女の地位評価

問1 社会全体でみた場合は、男女の地位は平等になっていると思いますか。(1つだけ)

社会全体でみた場合の男女の地位について評価してもらったところ、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人が64.9%と最も多くみられた。これに「男性の方が非常に優遇されている」と答えた人(9.5%)をあわせると、“男性が優遇されている※1”と評価する人は74.4%となる。これに対し、“女性が優遇されている※2”と評価する人は5.2%にとどまっている。

【性別】

男女ともに“男性が優遇されている※1”と評価する人が多くみられるが、男性では68.7%であるのに対し、女性は78.6%に達している。

【性・年代別】

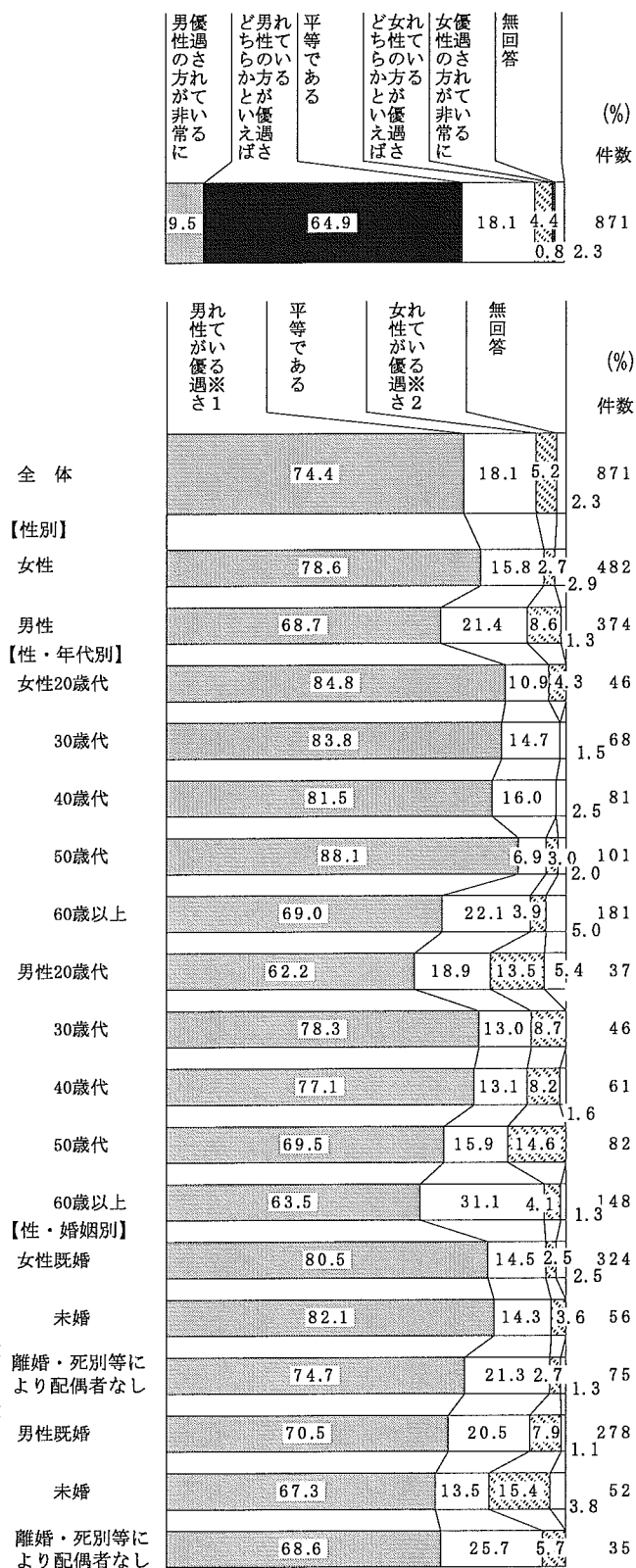
女性の40歳代(81.5%)、50歳代(88.1%)で“男性が優遇されている※1”と評価する人が8割以上を占めている。

【性・婚姻別】

男性既婚者(70.5%)よりも女性既婚者(80.5%)に“男性が優遇されている※1”と評価する人が多くみられる。

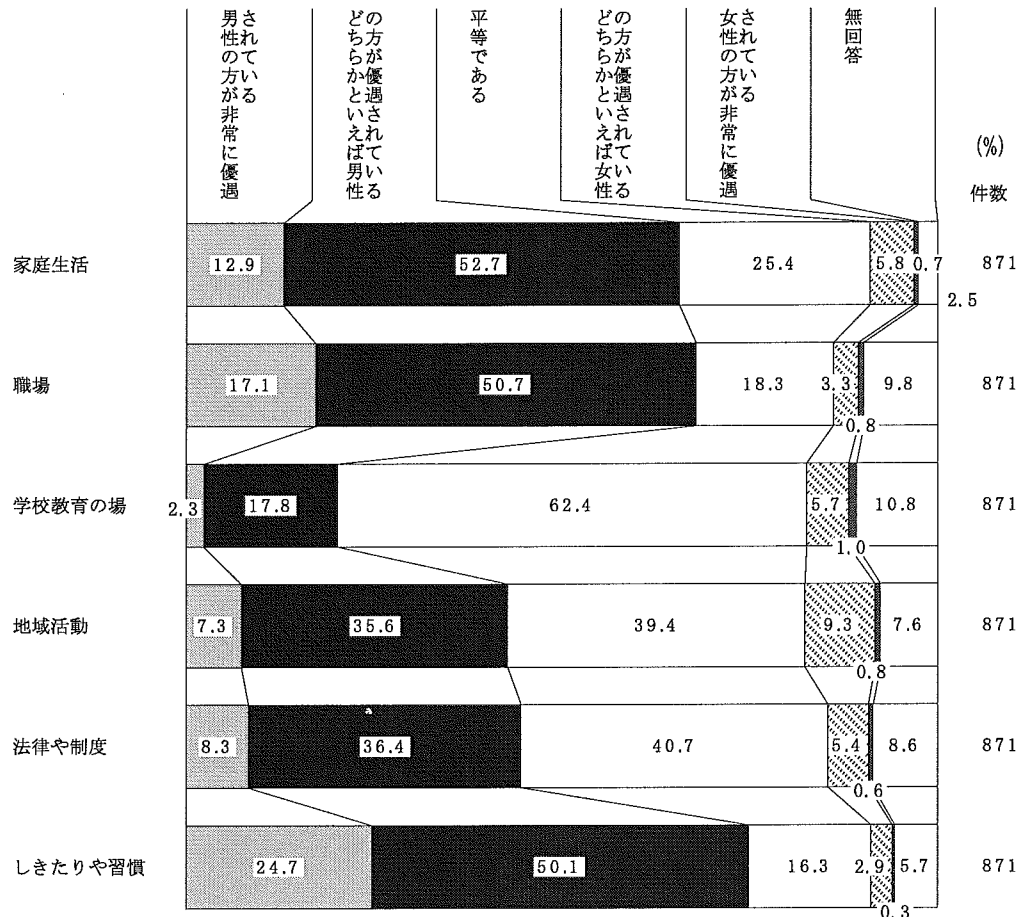
※1 「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2 「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計



1-2 各分野の男女の地位評価

問2 各分野における男女の地位は平等になっていると思いますか。(各1つずつ)



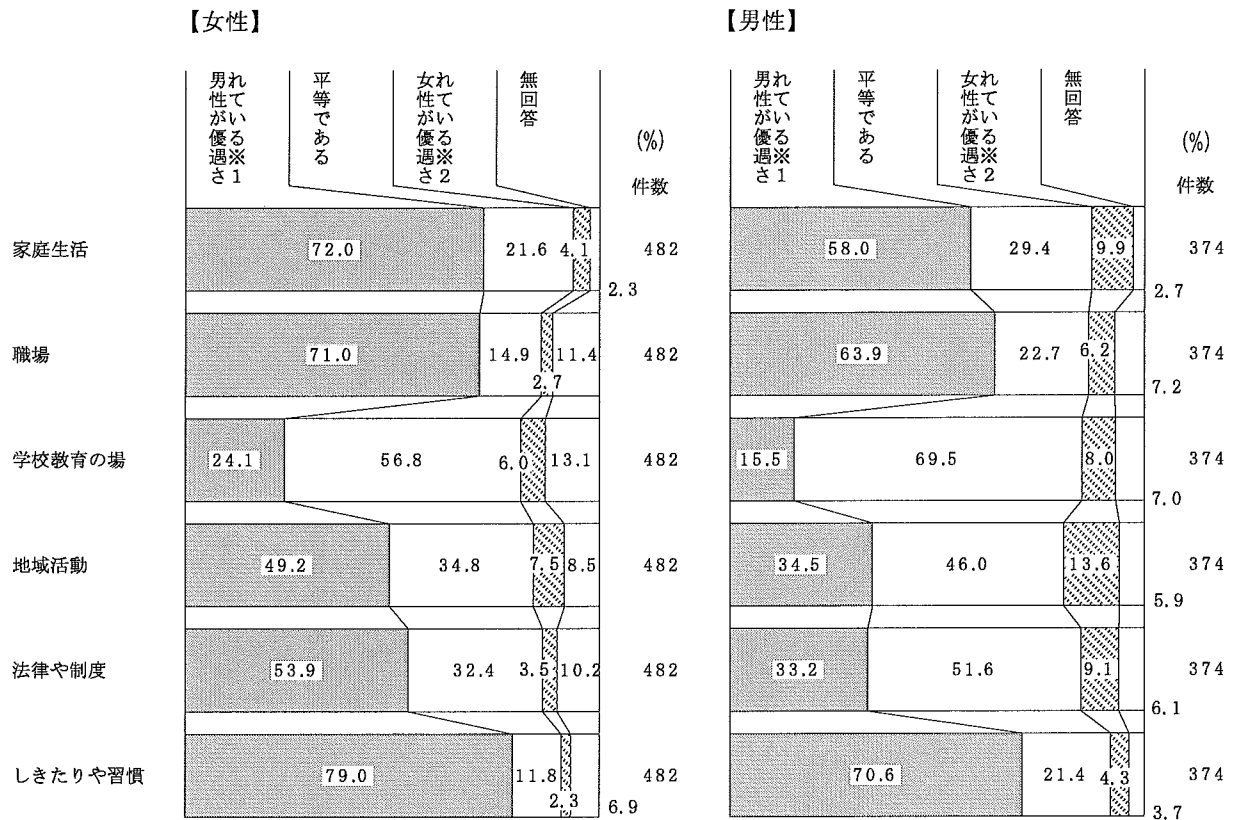
分野別に男女の地位を評価してもらったところ、“男性が優遇されている※1”と評価する人は、「しきたりや習慣」が74.8%と最も多く、次いで「職場」が67.8%、「家庭生活」が65.6%となっている。一方、“女性が優遇されている※2”と評価する人は「地域活動」が10.1%と最も多くなっている。

※1 「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2 「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計

【性別】

女性では、いずれの分野についても“男性が優遇されている※1”と評価する人が多くなっている。一方、“女性が優遇されている※2”と評価する人は、いずれの分野についても男性に多くなっている。また、男性が優遇されていると評価する人で男女差が最も大きかったのは、「法律や制度」であり、男性が33.2%、女性が53.9%と20.7ポイント差で女性に多くみられる。



※1 「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計
 ※2 「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計

2 家庭生活などについて

2-1 固定的役割分担意識について

問3 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。
(1つだけ)

「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担への考え方についてたずねたところ、「どちらかといえばそう思う」と答えた人が30.9%で最も多くみられた。これに「そう思う」と答えた人(9.3%)をあわせると、「そう思う※1」(肯定的)は40.2%となる。一方、「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」をあわせた否定的な人(「そうは思わない」※2と答えた人)は31.0%となり、肯定的な人が多くなっている。

【性別】

男性より女性に固定的役割分担に否定的な人(「そうは思わない」※2と答えた人)が多くみられ、逆に肯定的な人(「そう思う」※1と答えた人)は女性(36.7%)よりも男性(43.6%)に多くなっている。

【性・年代別】

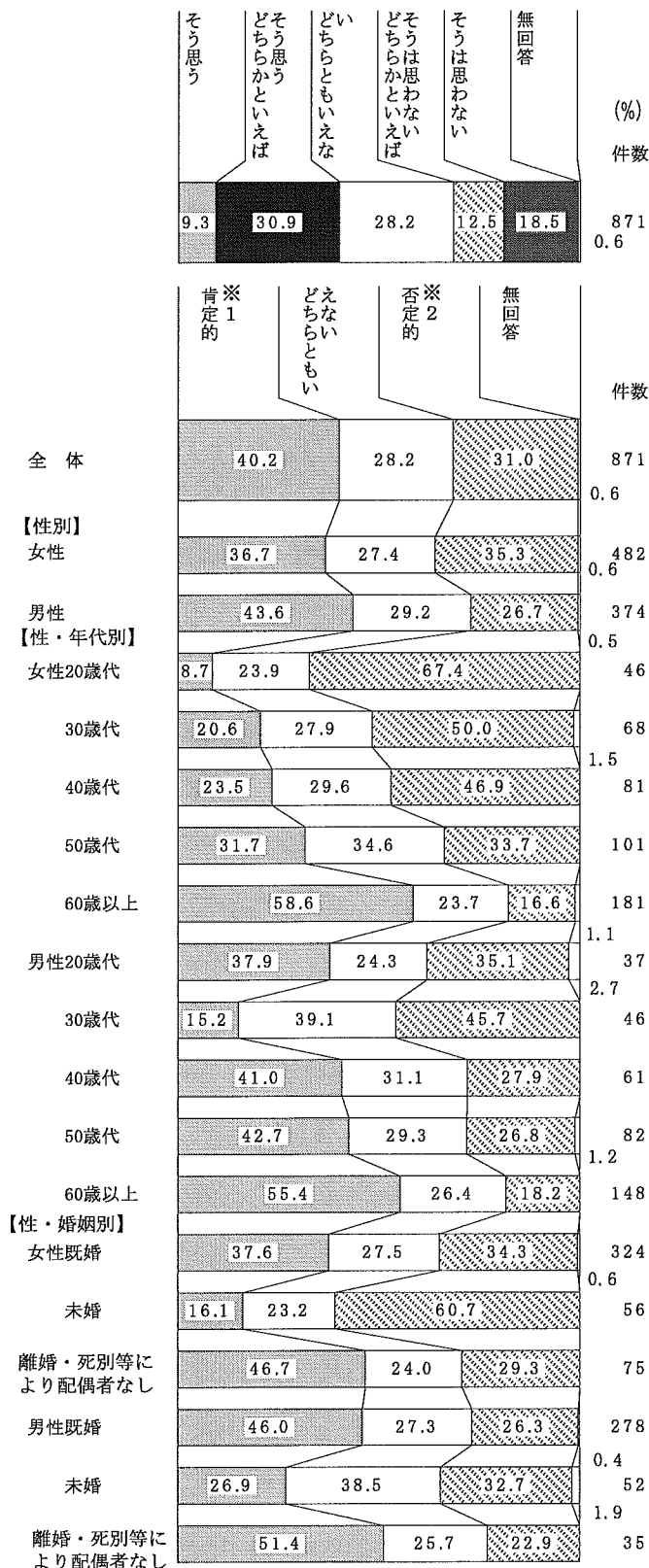
女性60歳以上(58.6%)、男性60歳以上(55.4%)で肯定的な人が半数以上を占めている。一方、女性50歳代以下と男性30歳代では否定的な人が多くなっている。

【性・婚姻別】

女性既婚者(37.6%)よりも男性既婚者(46.0%)に肯定的な人が多くなっている。

※1 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計

※2 「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」の計

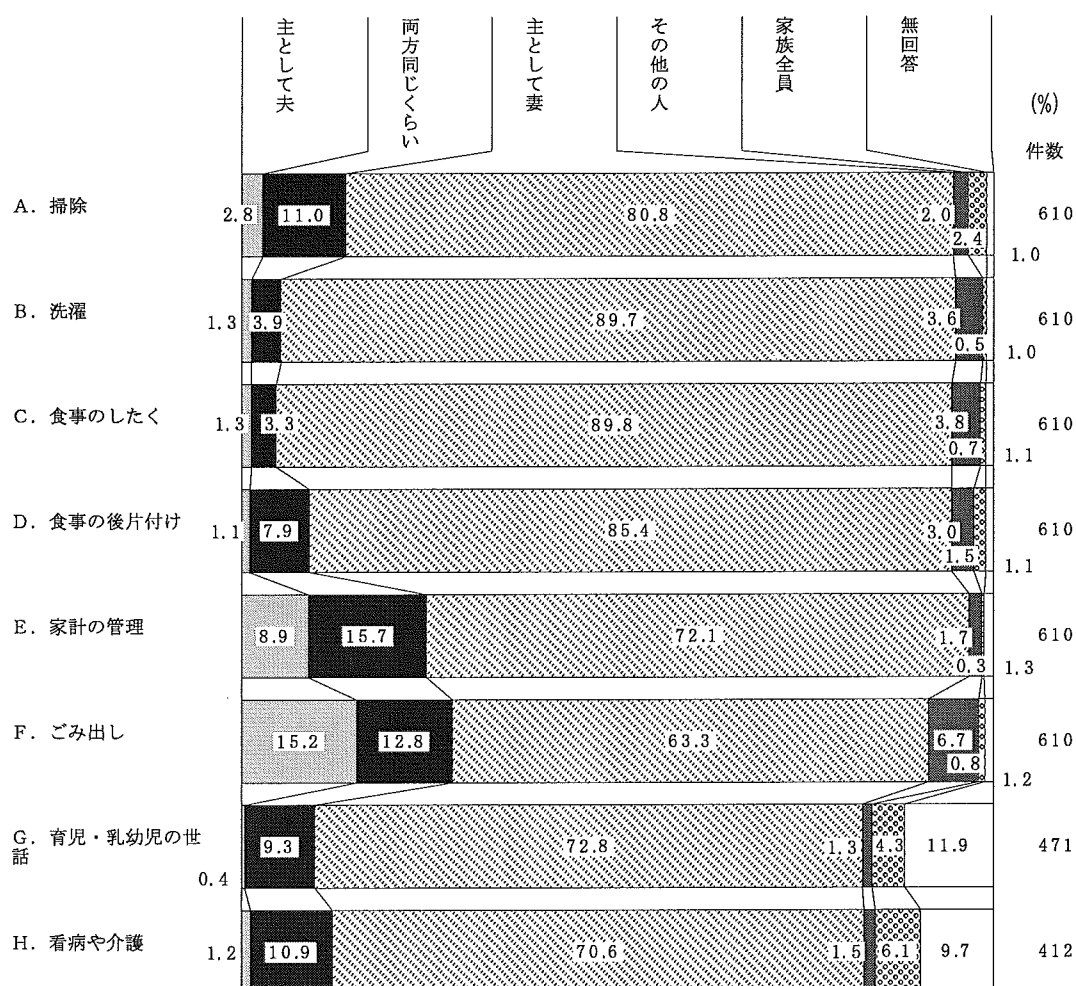


2-2 家庭における役割分担

<結婚している方にお聞きします。>

問4 あなたの家庭では、次にあげるような家事や育児などについて、主に誰が行っていますか。(各1つずつ)

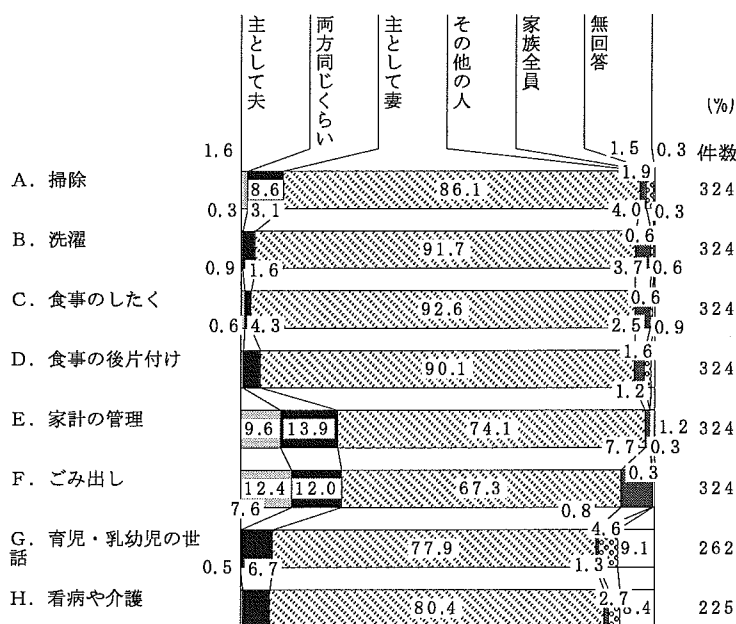
既婚者に対して、家事分担の現状についてたずねたところ、いずれの項目についても「主として妻」と答えた人が多く、「掃除」については約8割、「洗濯」「食事のしたく」「食事の後片付け」は約9割、「家計の管理」は約7割、「ごみ出し」は約6割、「育児・乳幼児の世話」「看病や介護」については約7割を占めている。



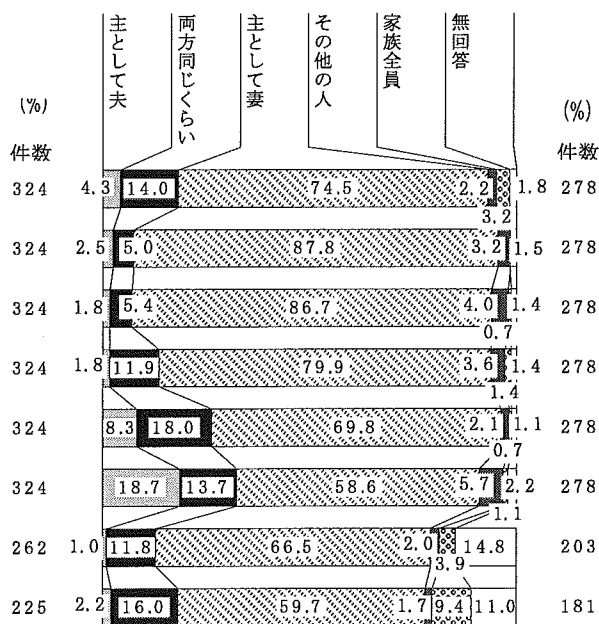
【性別】

女性では、いずれの項目も「主として妻」と答えた人が多く、「両方同じくらい」と答えた人は女性より男性に若干多くみられる。このことから、男性からみると“同じくらい”分担していると考えているが、女性からみると“主として妻”が行っているといった意識差がうかがえる。

【女性】



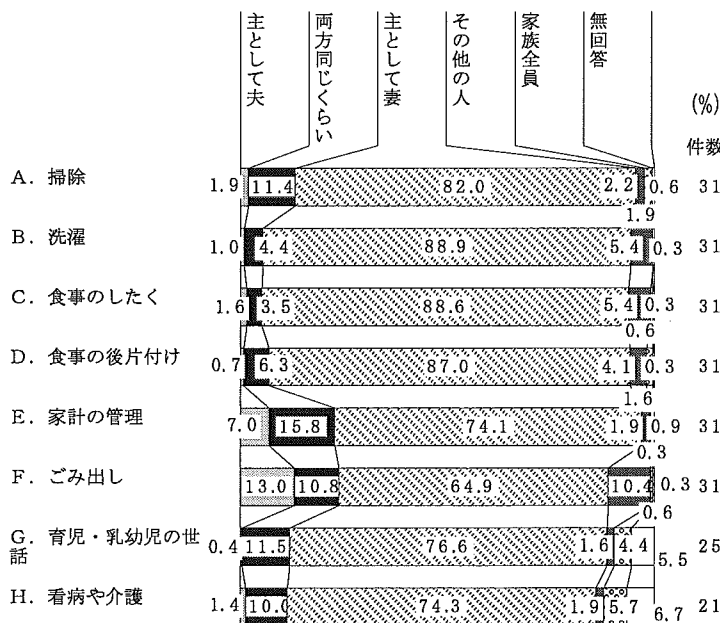
【男性】



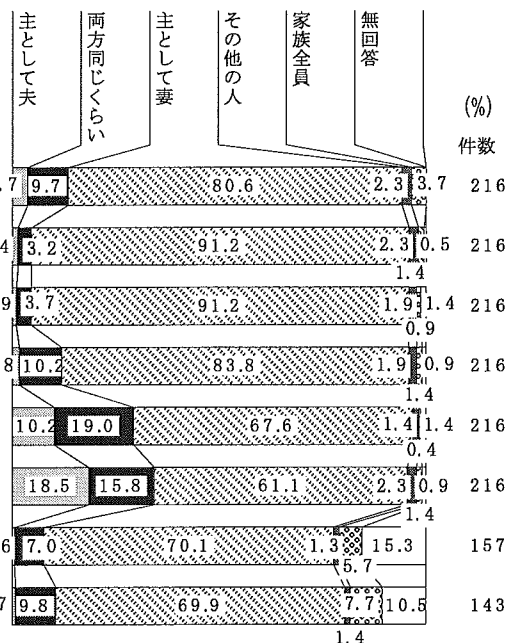
【共働きの有無別】

共働きをしている、していないにかかわらず、「主として妻」といった家庭が多くなっている。また、掃除、食事の後片付け、家計の管理、ごみ出し、育児・乳幼児の世話、看病や介護で「主として妻」といった家庭は、共働きをしていない家庭よりも共働きをしている家庭に多くみられる。

【共働きをしている】



【共働きをしていない】



2-3 子育てについての考え方

問5 あなたは、子育てについてどのような考えを持っていますか。(1つだけ)

子育てについての考え方は、「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず個性を尊重するのがよい」と答えた人が48.5%を占め、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」(42.8%)を5.7ポイント上回っている。

【性別】

男性より女性に「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず個性を尊重するのがよい」が多くみられ、逆に「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」は、女性(39.2%)よりも男性(46.8%)に多くみられる。

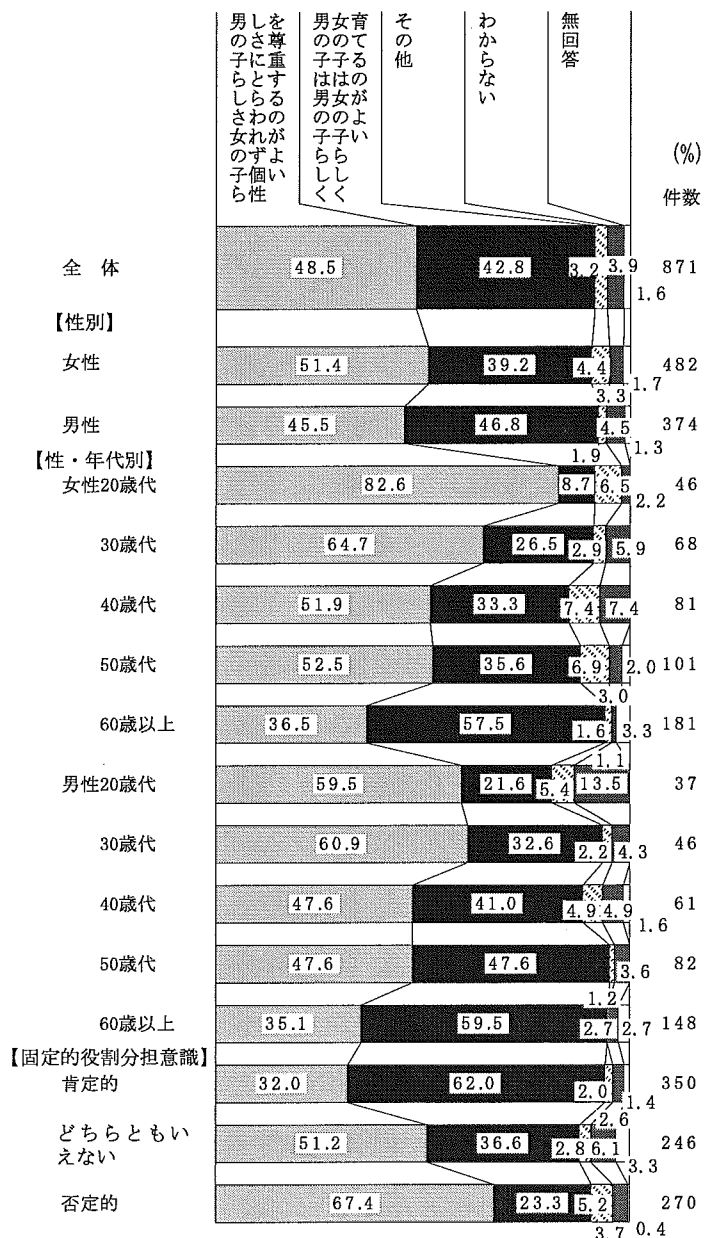
【性・年代別】

「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず個性を尊重するのがよい」は、女性20歳代が8割以上、30歳代が6割以上、40歳代、50歳代が5割以上、男性20歳代、30歳代で約6割といった若・中年層に多くみられる。一方、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」は、男女とも60歳で約6割を占めている。

【固定的役割分担意識別】

(問3「男は仕事、女は家庭」)

「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず個性を尊重するのがよい」は、固定的役割分担に否定的な人(67.4%)に多く、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」は、固定的役割分担に肯定的な人(62.0%)に多くみられる。



2-4 自分自身の結婚観

<結婚していない方にお聞きします。>

問6 あなたは、自分自身の結婚についてどのようにお考えですか。(1つだけ)

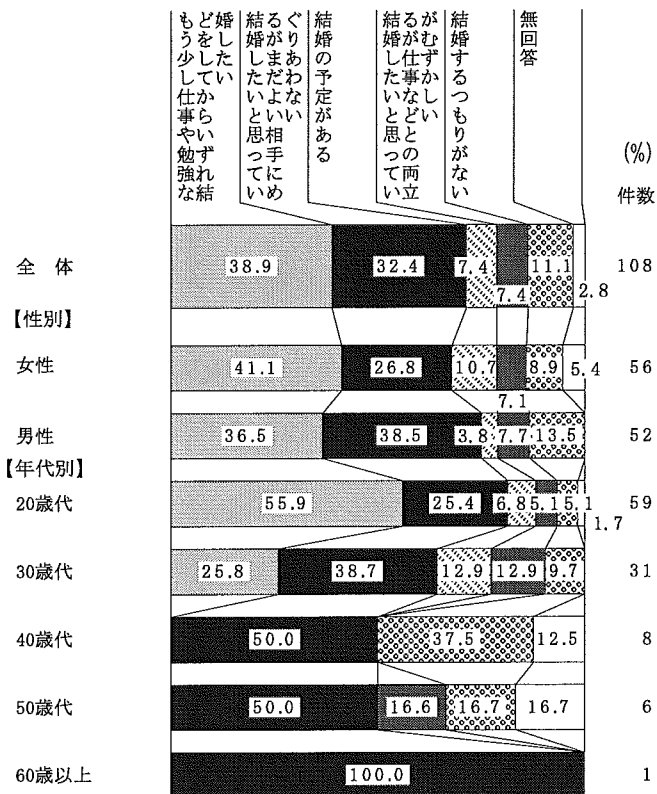
結婚していない人に対して、結婚に対する考え方をたずねたところ、「もう少し仕事や勉強などをしてからいずれ結婚したい」と答えた人が38.9%と最も多く、次いで「結婚したいと思っているがまだよい相手にめぐりあわない」が32.4%、「結婚するつもりがない」が11.1%となっている。

【性別】

女性(26.8%)より男性(38.5%)に「結婚したいと思っているがまだよい相手にめぐりあわない」が多く、「結婚するつもりがない」も、女性(8.9%)より男性(13.5%)に多くみられる。

【年代別】

20歳代(55.9%)では、「もう少し仕事や勉強などをしてからいずれ結婚したい」が多くみられる。

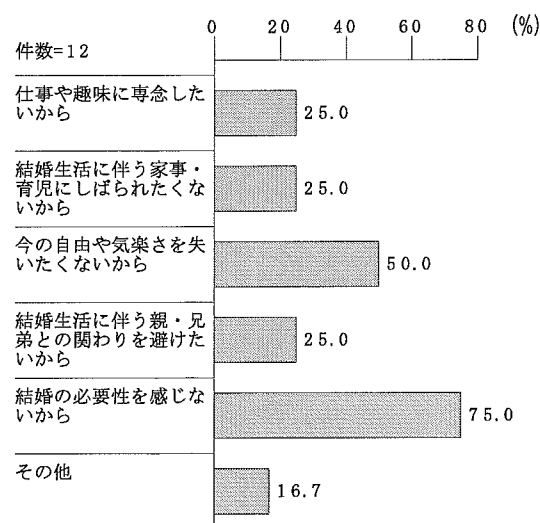


2-5 結婚しない理由

<問6で「5. 結婚するつもりがない」と答えた方にお聞きします。>

問6-1 その理由は何ですか。(いくつでも)

結婚するつもりがない理由は、「結婚の必要性を感じないから」と答えた人が75.0%で最も多く、次いで「今の自由や気楽さを失いたくないから」が50.0%、「仕事や趣味に専念したいから」「結婚生活に伴う家事・育児にしまられたくないから」「結婚生活に伴う親、兄弟との関わりを避けたいから」がいずれも25.0%となっている。



【性・年齢別】

		件数	結婚しない理由					
			仕事や趣味に専念したいから	結婚生活に伴う家事・育児にしまられたくないから	今の自由や気楽さを失いたくないから	結婚生活に伴う親・兄弟との関わりを避けたいから	結婚の必要性を感じないから	その他
全 体		12	25.0	25.0	50.0	25.0	75.0	16.7
性別	女性	5	40.0	20.0	40.0	20.0	80.0	-
	男性	7	14.3	28.6	57.1	28.6	71.4	28.6
年齢	20歳代	3	66.7	33.3	66.7	33.3	66.7	33.3
	30歳代	3	33.3	-	-	-	33.3	33.3
	40歳代	3	-	33.3	100.0	33.3	100.0	-
	50歳代	1	-	-	100.0	-	100.0	-
	60歳以上	-	-	-	-	-	-	-

2-6 男女平等のための学校教育のあり方

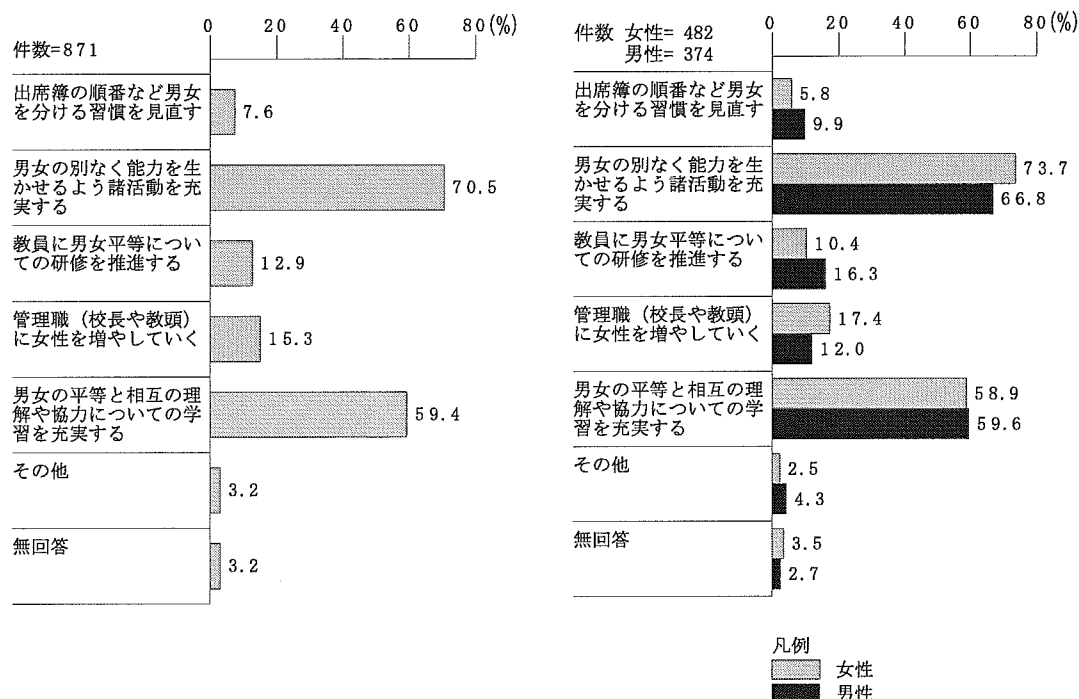
問7 男女平等の人間関係をつくるために、学校教育の場で力を入れることは何だと思いませんか。(2つまで)

男女平等の人間関係をつくるために、学校教育の場でどのようなことに力を入れるとよいかたずねたところ、「男女の別なく能力を生かせるよう諸活動を充実する」と答えた人が70.5%と最も多く、次いで「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が59.4%となっている。

【性別】

男女とも「男女の別なく能力を生かせるような諸活動を充実する」が多くみられる。

(男性66.8%/女性73.7%)



3 社会参加・参画について

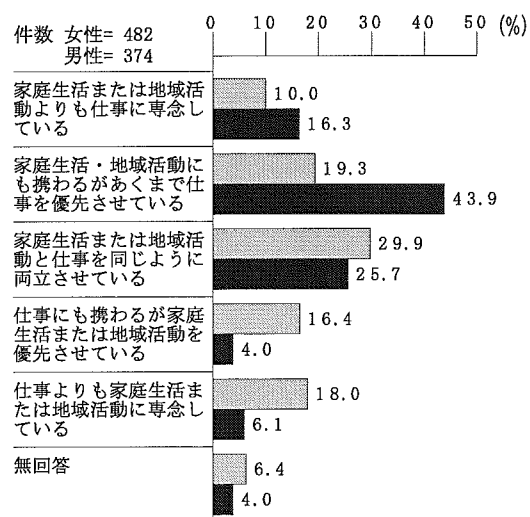
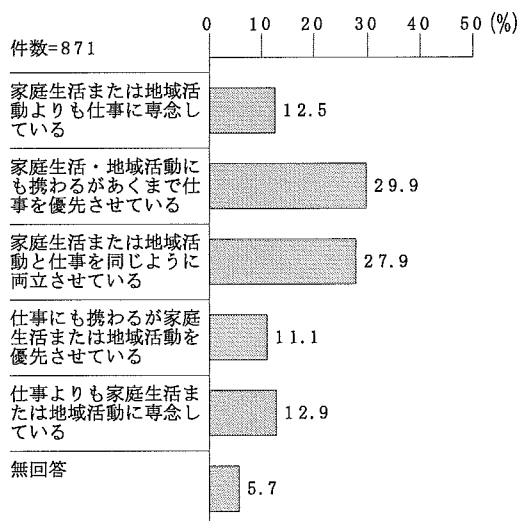
3-1 地域活動への参加状況

問8 仕事・家庭生活・地域活動の関係について、現在の状況では、あなたはどれに当たりますか。(1つだけ)

仕事・家庭生活・地域活動の関係について、現在の状況をたずねたところ、「家庭生活・地域活動にも携わるがあくまで仕事を優先させている」(29.9%)や「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させている」(27.9%)と答えた人が多く、これらに次いで「仕事よりも家庭生活または地域活動に専念している」が12.9%、「家庭生活または地域活動よりも仕事に専念している」が12.5%となっている。

【性別】

女性より男性に「家庭生活・地域活動にも携わるがあくまで仕事を優先させている」が多くみられる。「仕事にも携わるが家庭生活または地域活動を優先させている」は男性(4.0%)より女性(16.4%)に多く、「仕事よりも家庭生活または地域活動に専念している」も、男性(6.1%)よりも女性(18.0%)に多くみられる。



凡例
 女性
 男性

【性・年代別】

男女とも20歳代で「家庭生活または地域活動よりも仕事に専念している」が多く、「家庭生活・地域活動にも携わるがあくまで仕事を優先させている」は、男性30歳代～50歳代で5割以上を占めている。また、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させている」は、女性の40歳以上と男性60歳以上で3割以上となっている。

	件数	地域活動への参加状況					
		家庭より仕事に専念している	家庭・地域活動に携わるが、あくまで仕事を優先させている	家庭・地域活動と仕事を同じように両立させている	仕事に専念している	家庭生活・地域活動に専念している	無回答
全 体	871	12.5	29.9	27.9	11.1	12.9	5.7
性・年代	女性20歳代	46	37.0	19.6	21.7	8.7	2.2
	30歳代	68	20.6	13.2	13.2	26.5	1.5
	40歳代	81	3.7	27.2	34.6	24.7	—
	50歳代	101	8.9	24.8	37.6	12.9	2.0
	60歳以上	181	2.2	14.9	31.5	13.3	14.9
	男性20歳代	37	48.6	29.7	10.8	—	2.7
	30歳代	46	32.6	50.0	10.9	4.3	—
	40歳代	61	11.5	57.4	23.0	3.3	3.3
	50歳代	82	14.6	54.9	28.0	—	1.2
	60歳以上	148	6.1	33.8	33.8	7.4	6.1

3-2 男性の地域社会・家庭生活などへの参画の必要性

問9 「男性はもっと地域社会の活動や家庭生活における活動に参画する必要がある」という考え方がありますが、あなたはこの考え方についてどのように思いますか。
(1つだけ)

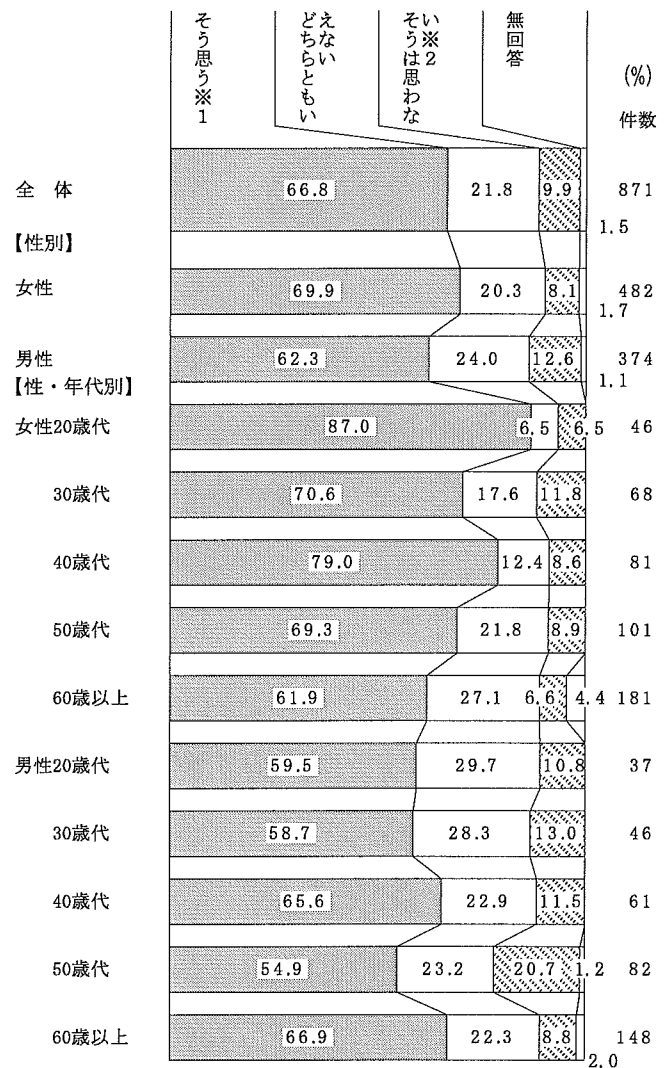
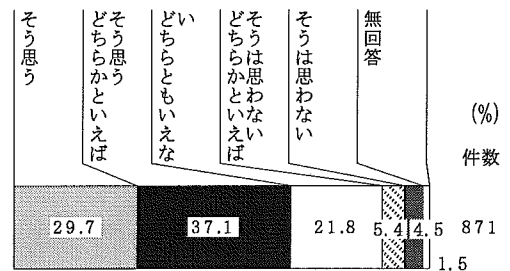
「男性はもっと地域社会の活動や家庭生活における活動に参画する必要がある」という考えに対し、「どちらかといえはそう思う」と答えた人が37.1%で最も多くみられた。これに「そう思う」と答えた人(29.7%)をあわせると、“そう思う※1”(肯定的)は66.8%となる。

【性別】

男性(62.3%)よりも女性(69.9%)に“そう思う※1”人が多くみられる。

【性・年代別】

女性20歳代(87.0%)で“そう思う※1”人が8割以上を占めている。



※1 「そう思う」と「どちらかといえはそう思う」の計

※2 「そうは思わない」と「どちらかといえはそうは思わない」の計

3-3 政策や企画の方針決定における女性の参画

問10 あなたは、国や県・市政において、政策や企画の方針を決める際に女性の意見をもっと反映するようにしたほうがよいと思いますか。(1つだけ)

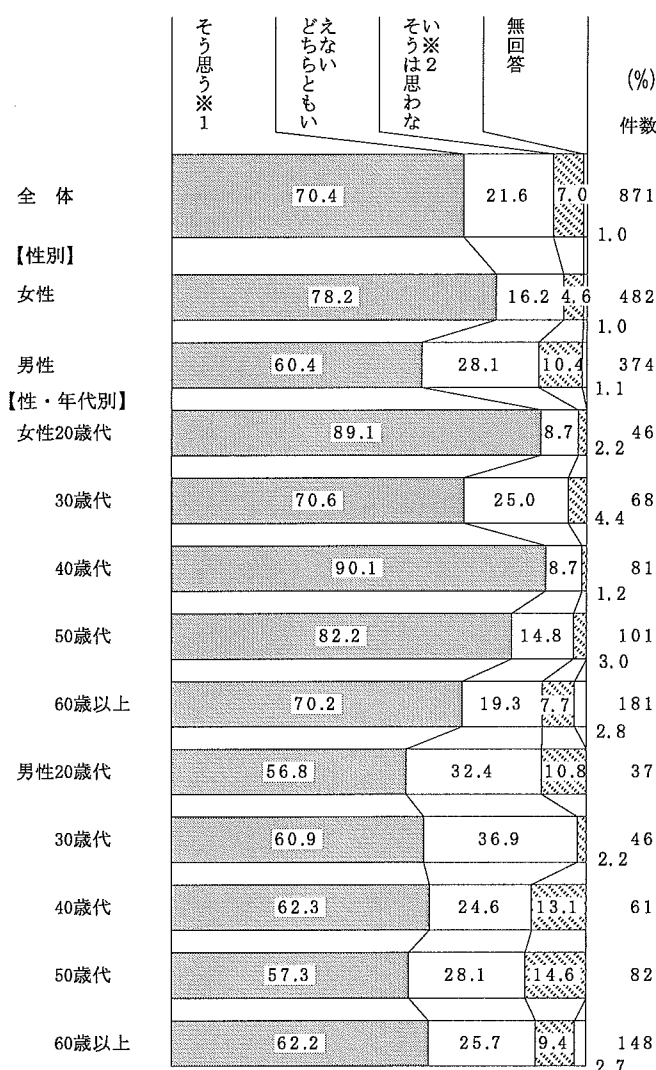
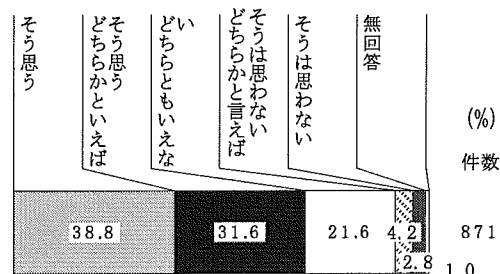
政策や企画の方針を決める際に女性の意見をもっと反映するようにしたほうがよいかについては、「そう思う」と答えた人が38.8%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」と答えた人が31.6%となっている。これらをあわせると、“そう思う※1”と答えた人は70.4%となる。

【性別】

男性(60.4%)よりも女性(78.2%)に“そう思う※1”人が多くみられる。

【性・年代別】

女性20歳代(89.1%)、40歳代(90.1%)で“そう思う※1”人が約9割を占めている。



※1 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計

※2 「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」の計

4 仕事について

4-1 就労状況

問11 あなたは、収入をとまなう仕事をしていますか（パート、自営業、臨時、内職などを含みます）。（1つだけ）

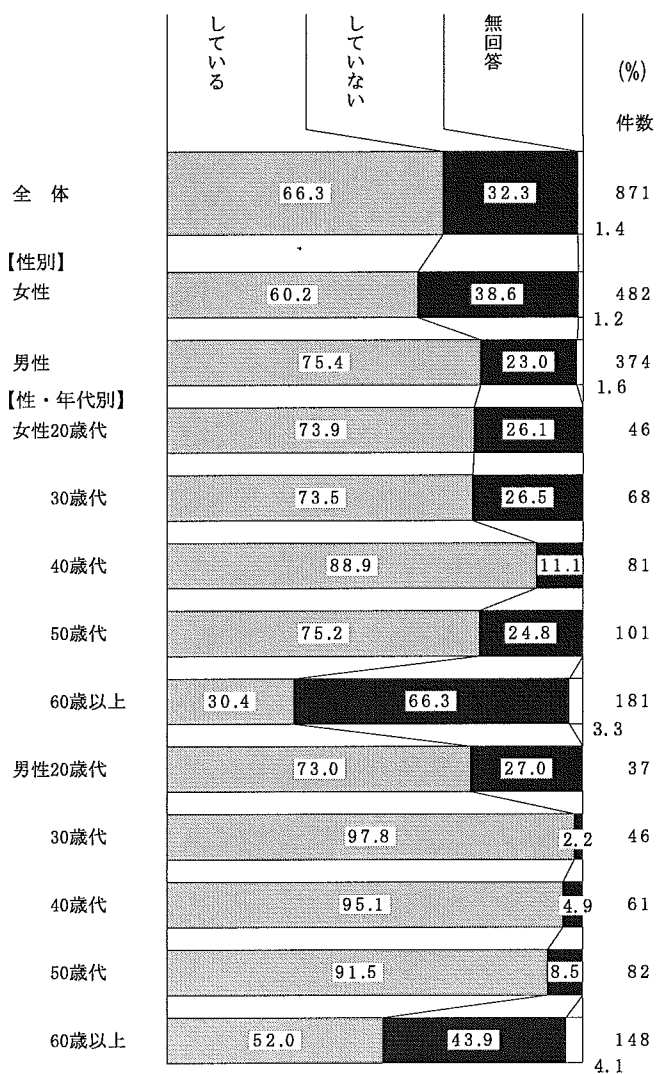
就労状況は、仕事を「している」と答えた人が66.3%、「していない」と答えた人が32.3%となっている。

【性別】

女性では、60.2%、男性では、75.4%の人が仕事を「している」となっている。

【性・年代別】

女性40歳代が、仕事を「している」人が約9割と一番多く、男性では、30歳代～50歳代で9割以上を占めている。



4-2 働いている理由

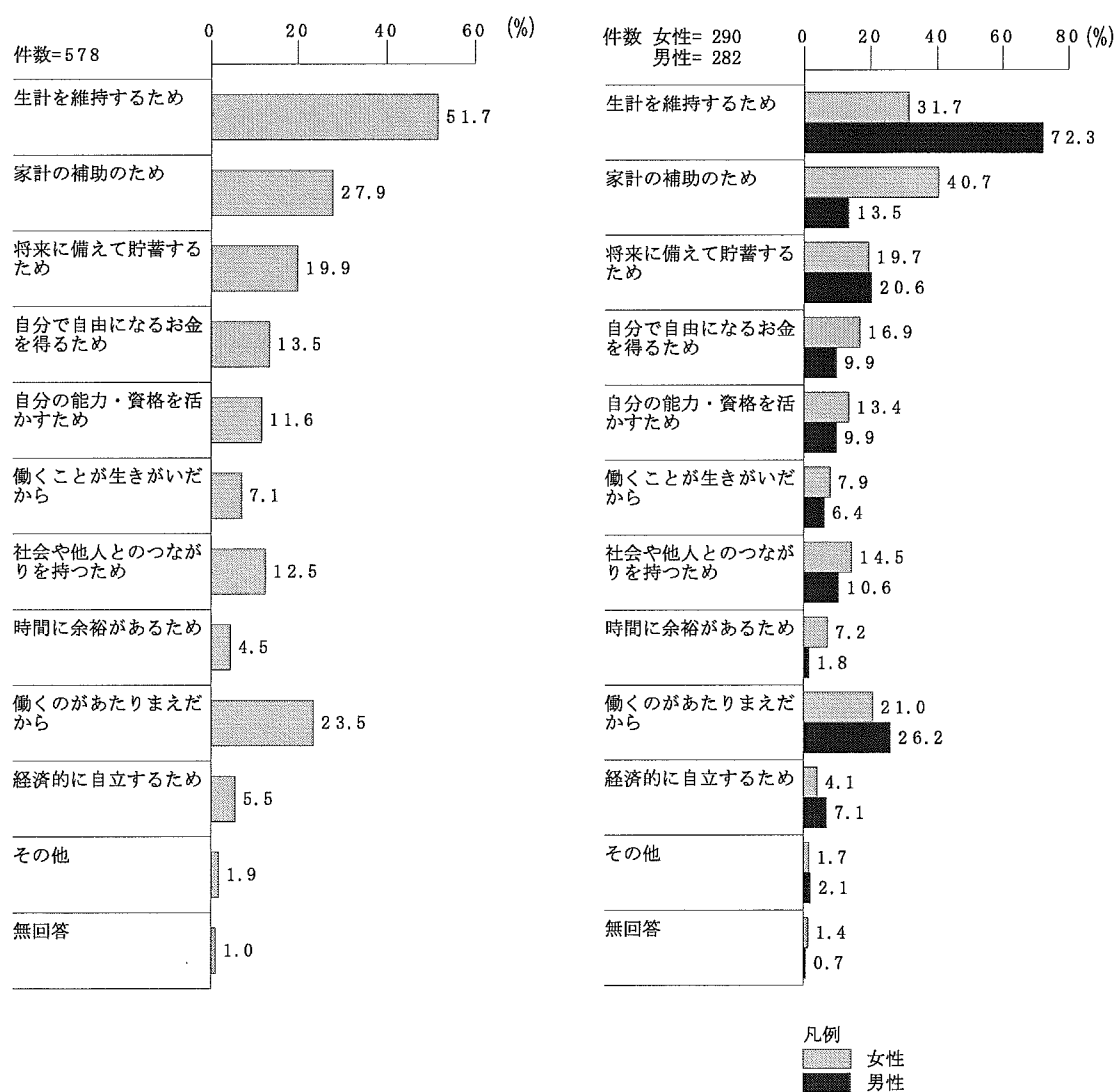
<問11で「1. している」と答えた方にお聞きします。>

問11-1 あなたが働いているのは、どのような理由からですか。(2つまで)

仕事をしている理由は、「生計を維持するため」と答えた人が51.7%で最も多く、次いで「家計の補助のため」が27.9%、「働くのがあたりまえだから」が23.5%となっている。

【性別】

女性(31.7%)より男性(72.3%)に「生計を維持するため」が多く、「働くのがあたりまえだから」についても男性に多くみられる(女性21.0%/男性26.2%)。「家計の補助のため」は、男性(13.5%)よりも女性(40.7%)に多く、「自分で自由になるお金を得るため」についても女性に多くみられる。(女性16.9%/男性9.9%)



【性・年代別】

男性の30歳代で84.4%、40歳代～50歳代で9割以上を「生計を維持するため」が占めている。「家計の補助のため」は、女性30歳代～50歳代で4割以上を占めている。また、「将来に備えて貯蓄するため」「経済的に自立するため」は男性20歳代に多く、「自分で自由になるお金を得るため」は女性20歳代で多くみられる。

		件数	働いている理由											
			生計を維持するため	家計の補助のため	将来に備えて貯蓄するため	自分で自由になるお金を得るため	自分の能力・資格を活かすため	働くことが生きがいだから	社会や他人とのつながりを持つため	時間に余裕があるため	働くのがあたりまえだから	経済的に自立するため	その他	無回答
全 体		578	51.7	27.9	19.9	13.5	11.6	7.1	12.5	4.5	23.5	5.5	1.9	1.0
性・年代	女性20歳代	34	26.5	14.7	32.4	50.0	17.6	2.9	2.9	2.9	17.6	11.8	-	2.9
	30歳代	50	26.0	42.0	32.0	22.0	22.0	6.0	14.0	6.0	10.0	4.0	-	-
	40歳代	72	37.5	52.8	15.3	12.5	12.5	5.6	13.9	5.6	19.4	2.8	1.4	1.4
	50歳代	76	39.5	44.7	13.2	10.5	10.5	5.3	15.8	9.2	27.6	2.6	2.6	1.3
	60歳以上	55	23.6	32.7	16.4	7.3	7.3	18.2	20.0	10.9	27.3	1.8	3.6	1.8
	男性20歳代	27	40.7	11.1	40.7	37.0	7.4	-	11.1	-	25.9	22.2	-	-
	30歳代	45	84.4	11.1	13.3	11.1	17.8	2.2	2.2	-	26.7	8.9	2.2	-
	40歳代	58	91.4	6.9	32.8	1.7	12.1	3.4	6.9	-	24.1	6.9	-	-
	50歳代	75	92.0	9.3	20.0	6.7	5.3	-	6.7	-	34.7	6.7	1.3	1.3
60歳以上	77	42.9	24.7	9.1	9.1	9.1	19.5	22.1	6.5	19.5	1.3	5.2	1.3	

【性・婚姻別】

男性既婚で「生計を維持するため」は78.4%を占めている。「家計の補助のため」は女性既婚で多くなっている。また、「将来に備えて貯蓄するため」「自分で自由になるお金を得るため」は男女ともに未婚で多くみられる。

		件数	働いている理由											
			生計を維持するため	家計の補助のため	将来に備えて貯蓄するため	自分で自由になるお金を得るため	自分の能力・資格を活かすため	働くことが生きがいだから	社会や他人とのつながりを持つため	時間に余裕があるため	働くのがあたりまえだから	経済的に自立するため	その他	無回答
全 体		578	51.7	27.9	19.9	13.5	11.6	7.1	12.5	4.5	23.5	5.5	1.9	1.0
性・婚姻	女性既婚	203	28.6	51.2	18.2	11.3	13.8	7.4	16.3	8.4	20.7	0.5	2.0	1.5
	未婚	46	26.1	13.0	30.4	54.3	13.0	4.3	4.3	4.3	21.7	15.2	-	-
	離婚・死別等により配偶者なし	31	61.3	9.7	9.7	3.2	16.1	12.9	19.4	6.5	22.6	12.9	3.2	3.2
	男性既婚	218	78.4	14.7	19.7	5.0	10.6	6.0	11.0	2.3	27.1	5.0	1.8	0.9
	未婚	41	43.9	9.8	31.7	36.6	12.2	2.4	7.3	-	24.4	17.1	2.4	-
	離婚・死別等により配偶者なし	20	65.0	5.0	10.0	10.0	-	20.0	5.0	-	20.0	10.0	5.0	-

4-3 役職の状況

＜問11で「1. している」と答えた方にお聞きします。＞

問11-2 あなたは、現在何か役職に就いていますか。（1つだけ）

役職に就いているかについては、「いいえ」（役職に就いていない）と答えた人が69.7%、「はい」（役職に就いている）と答えた人が26.1%となっている。

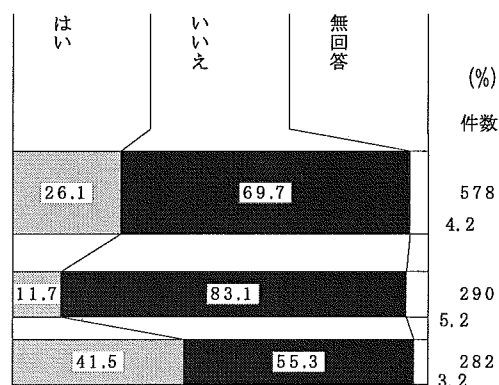
【性別】

男性に、「はい」（役職に就いている）と答えた人が多くなっている。
（女性11.7%／男性41.5%）

全 体

女性

男性



【性・常勤で働いている人別】

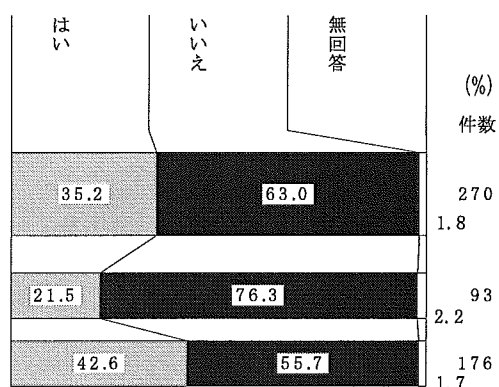
女性より男性に「はい」（役職に就いている）と答えた人が多くなっている。
（女性21.5%／男性が42.6%）

全 体

女性

男性

【常勤で働いている人】



4-4 職場での働きやすさ

<問11で「1. している」と答えた方にお聞きします。>

問11-3 あなたが働いている職場は、女性にとって働きやすいと思いますか。(1つだけ)

働きやすさについては、「どちらかといえば働きやすいと思う」が27.3%で最も多く、次いで「働きやすいと思う」が23.0%で続いており、これらをあわせた“女性にとって働きやすい※1”は50.3%と半数を超える。

【性別】

男性(43.3%)よりも女性(57.2%)に“働きやすいと思う※1”が多く、“働きやすいとは思わない※2”は女性(9.7%)よりも男性(26.9%)に多くみられる。

【性・年代別】

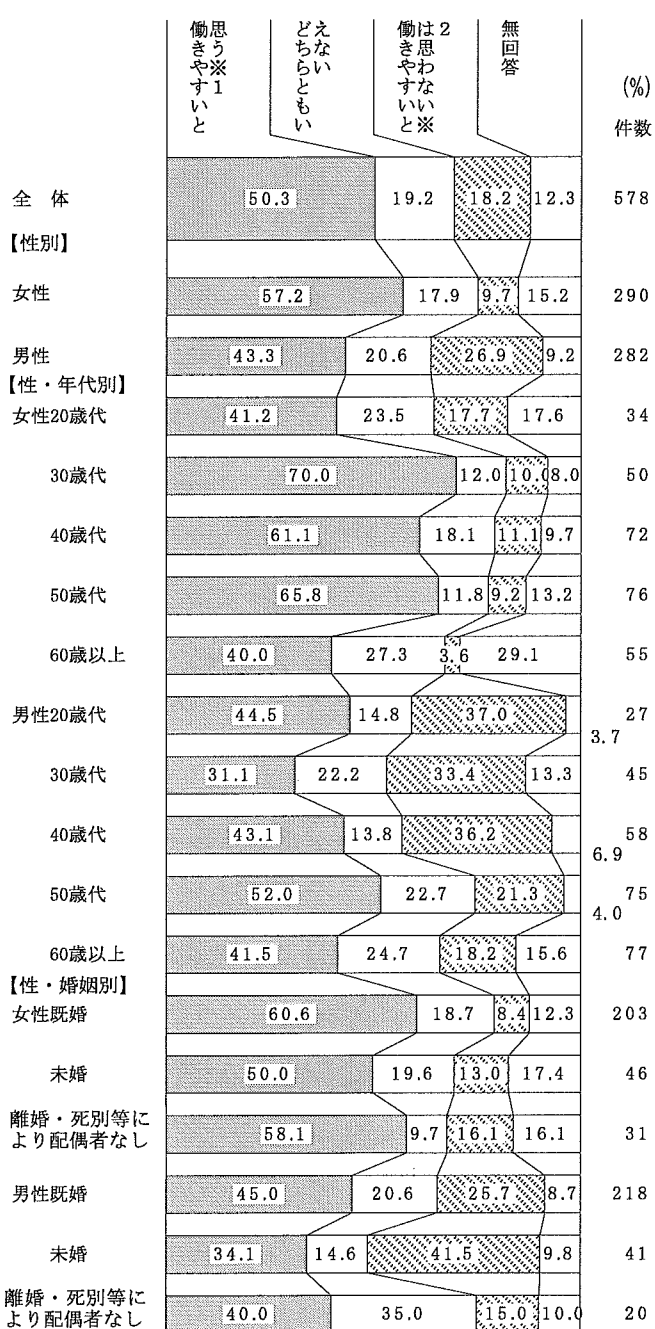
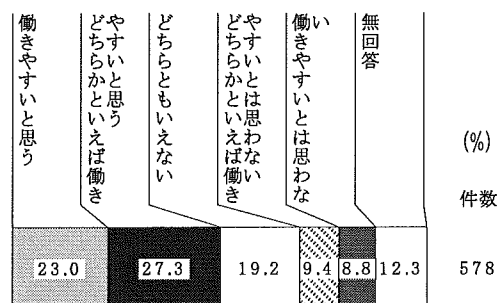
女性30歳代～50歳代で、“働きやすいと思う※1”は6割以上を占めている。一方、“働きやすいとは思わない※2”は男性40歳代以下で3割以上を占めている。

【性・婚姻別】

女性既婚(60.6%)で“働きやすいと思う※1”と評価する人が多くなっている。一方、“働きやすいとは思わない※2”は、男性未婚(41.5%)で多くみられる。

※1「働きやすいと思う」と「どちらかといえば働きやすいと思う」の計

※2「働きやすいとは思わない」と「どちらかといえば働きやすいとは思わない」の計

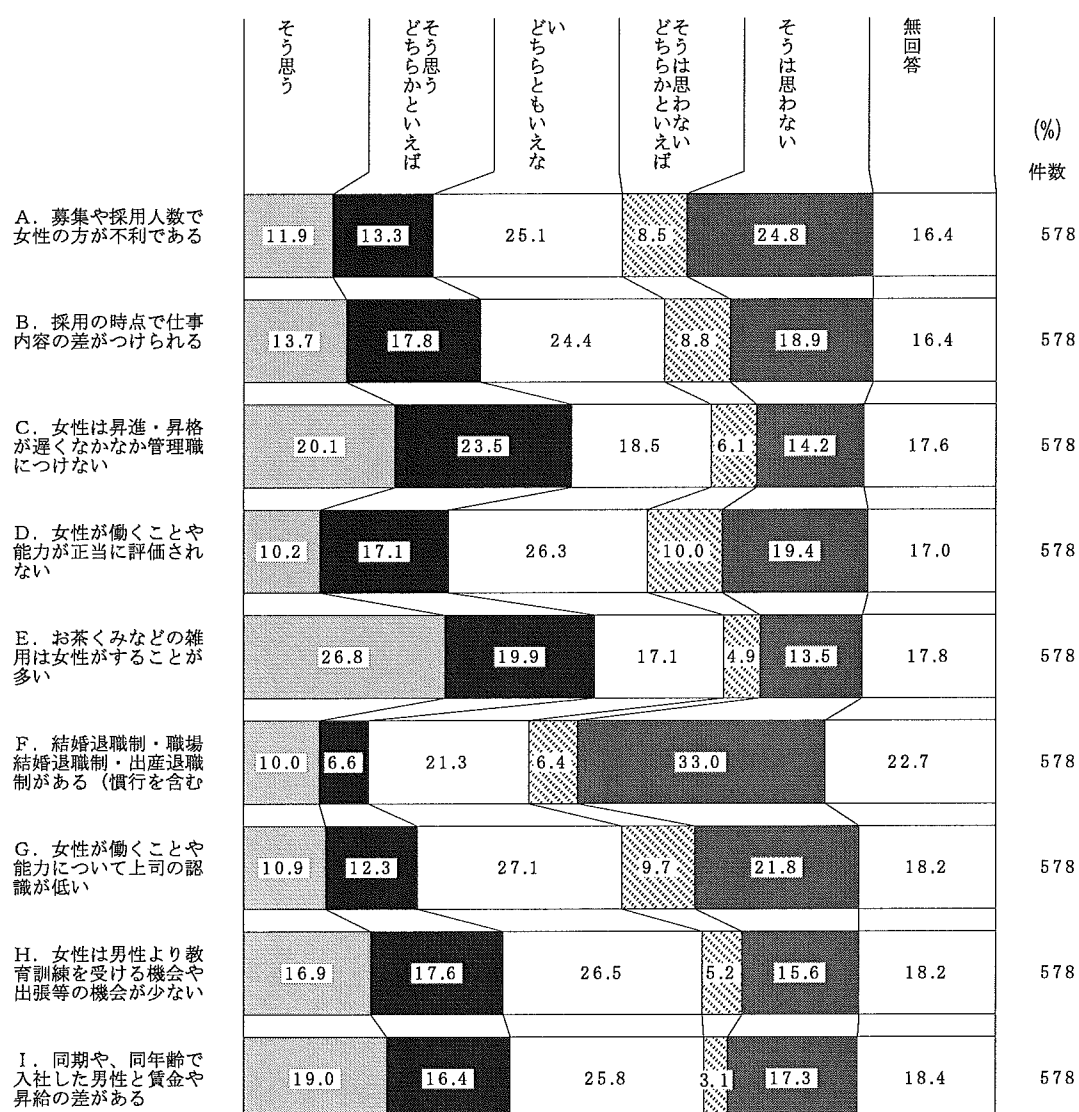


4-5 職場での男女の格差

<問11で「1. している」と答えた方にお聞きします。>

問11-4 あなたの職場では次のような男女格差がありますか。(1つだけ)

職場での男女差について、「そう思う」と答えた人をみると、「お茶くみなどの雑用は女性がすることが多い」が26.8%と最も多く、これに「女性は昇進・昇格が遅くなかなか管理職につけない」(20.1%)、「同期や、同年齢で入社した男性と賃金や昇給の差がある」(19.0%)、「女性は男性より教育訓練を受ける機会や出張等の機会が少ない」(16.9%)が続いている。

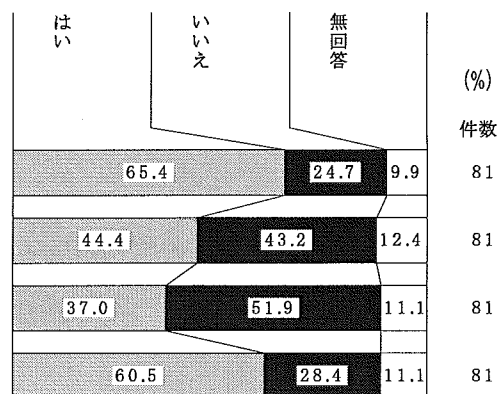


4-6 農林漁業・商工自営業の家族従業者の職場状況

＜現在、農林漁業または商工自営業で、家族従業者として働いてみる方にお聞きします。＞
問12 職場の状況についてお聞きします。(各1つずつ)

農林漁業、商工自営業で家族従業者として働いている人の職場の状況をみると、「経営方針に意見が いえる」「給与等の報酬を受けている」で「はい」と答えた人が6割以上を占めている。「1日の就業時間が決まっている」は、「はい」が37.0%、「いいえ」が51.9%となっており、1日の就業時間が決まっていな人が決まっている人よりも多くみられる。

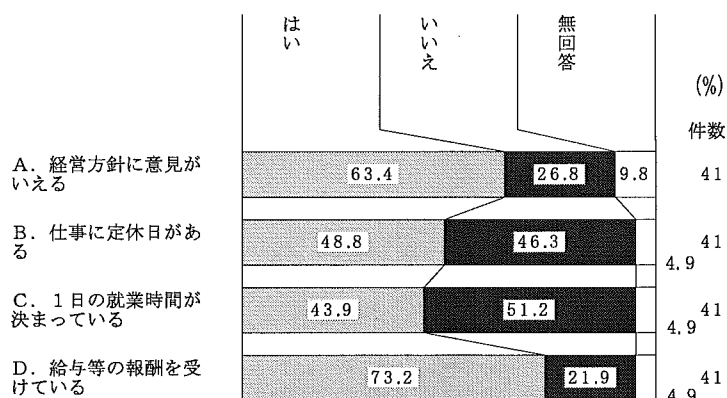
- A. 経営方針に意見が いえる
B. 仕事の定休日がある
C. 1日の就業時間が決まっている
D. 給与等の報酬を受けている



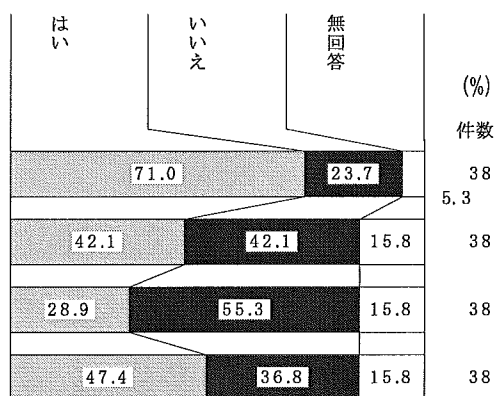
【性別】

女性では、「経営方針に意見が いえる」で「はい」と答えた人は63.4%、男性では、71.0%となっており、男性より女性の方が経営方針に意見が いえない状況となっている。また、「1日の就業時間が決まっている」「給与等の報酬を受けている」は、男性よりも女性に多くなっている。

【女性】



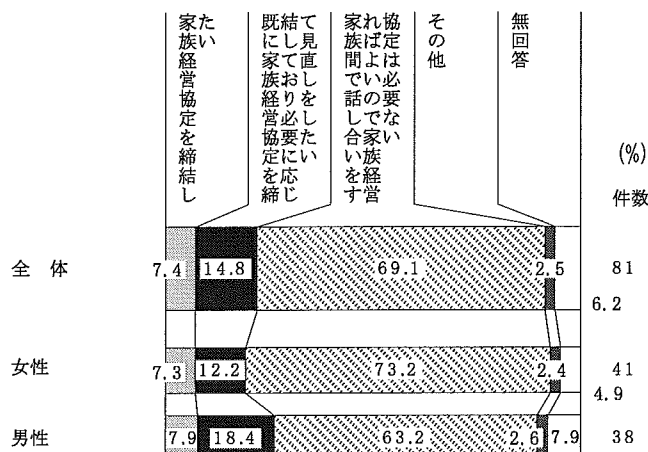
【男性】



4-7 家族経営協定についての考え方

＜現在、農林漁業または商工自営業で、家族従業者として働いてみる方にお聞きします。＞
問12-1 家族経営協定について、どのようにお考えですか。（1つだけ）

家族経営協定についての考え方は、「家族間で話し合いをすればよいので家族経営協定は必要ない」と答えた人が69.1%で最も多くみられる。一方、「既に家族経営協定を締結しており必要に応じて見直しをしたい」と答えた人は14.8%、「家族経営協定を締結したい」と答えた人は7.4%となっている。



【性別】

男性より女性に、「家族間で話し合いをすればよいので家族経営協定は必要ない」が多くみられる。

(女性73.2%／男性63.2%)

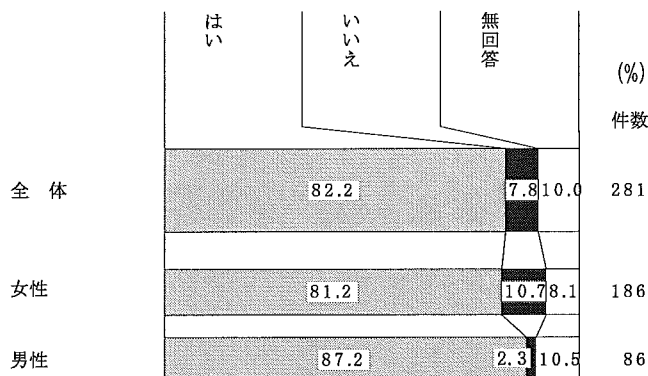
4-8 過去の就労状況

＜仕事をしていない方にお聞きします。＞
問13 あなたは、過去に収入になる仕事をしたことがありますか。（1つだけ）

仕事をしていない人の就労経験は、「はい」と答えた人が82.2%となっており、8割以上の方が就労経験があると答えている。一方、「いいえ」と答えた人は7.8%となっている。

【性別】

「はい」（就労経験がある）は、女性が81.2%、男性は87.2%となっている。



4-9 仕事をやめた理由

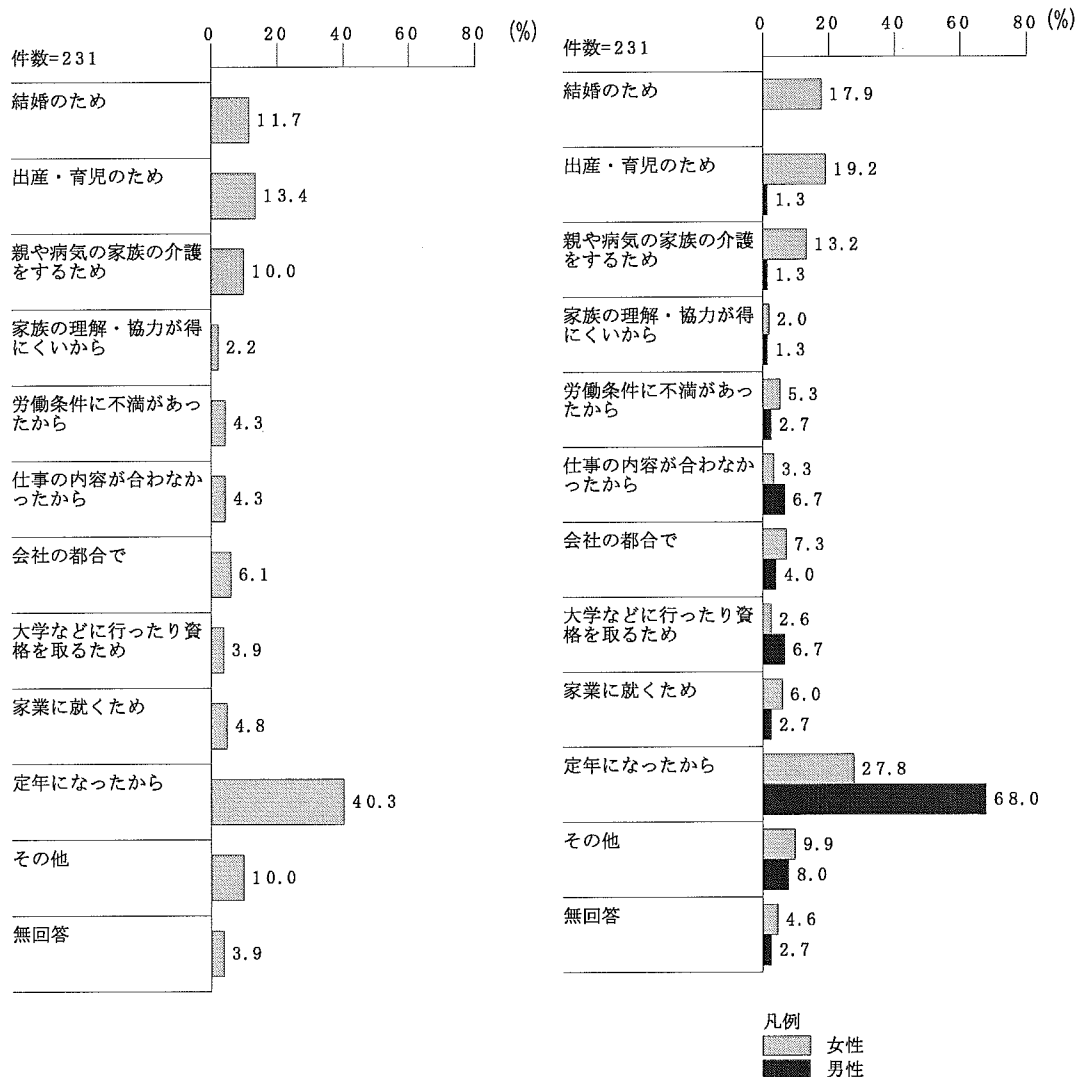
<問13で「1. はい」と答えた方にお聞きます。>

問13-1 その仕事をやめた理由は何ですか。(2つまで)

仕事をやめた理由は、「定年になったから」と答えた人が40.3%と他の項目を26.9ポイント以上引き離して多く、これに次いで「出産・育児のため」(13.4%)、「結婚のため」(11.7%)、「親や病気の家族の介護をするため」(10.0%)が1割台で続いている。

【性別】

男性より女性に「結婚のため」「出産・育児のため」「親や病気の家族の介護をするため」が多くみられる。一方、「定年になったから」は、男性(68.0%)が女性(27.8%)の2倍以上の割合となっている。



4-10 今後の就労意向

<問13で「1. はい」と答えた方にお聞きします。>
 問13-2 今後、働きたいと思いますか。(1つだけ)

今後の就労意向については、「働きたい」と答えた人が35.5%、「働きたくない」と答えた人が37.7%となっている。

【性別】

男性(33.4%)よりも女性(37.7%)に「働きたい」人が若干多くなっている。一方、「働きたくない」人は女性(33.8%)よりも男性(44.0%)に多くみられる。

【年代別】

20歳代(88.2%)、30歳代(84.2%)で「働きたい人」が8割以上を占めている。

全 体

【性別】

女性

男性

【年代別】

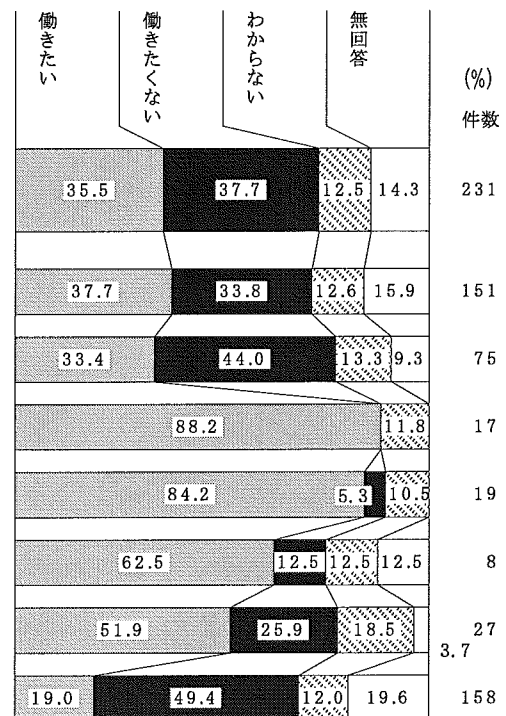
20歳代

30歳代

40歳代

50歳代

60歳以上



4-11 希望する就労形態

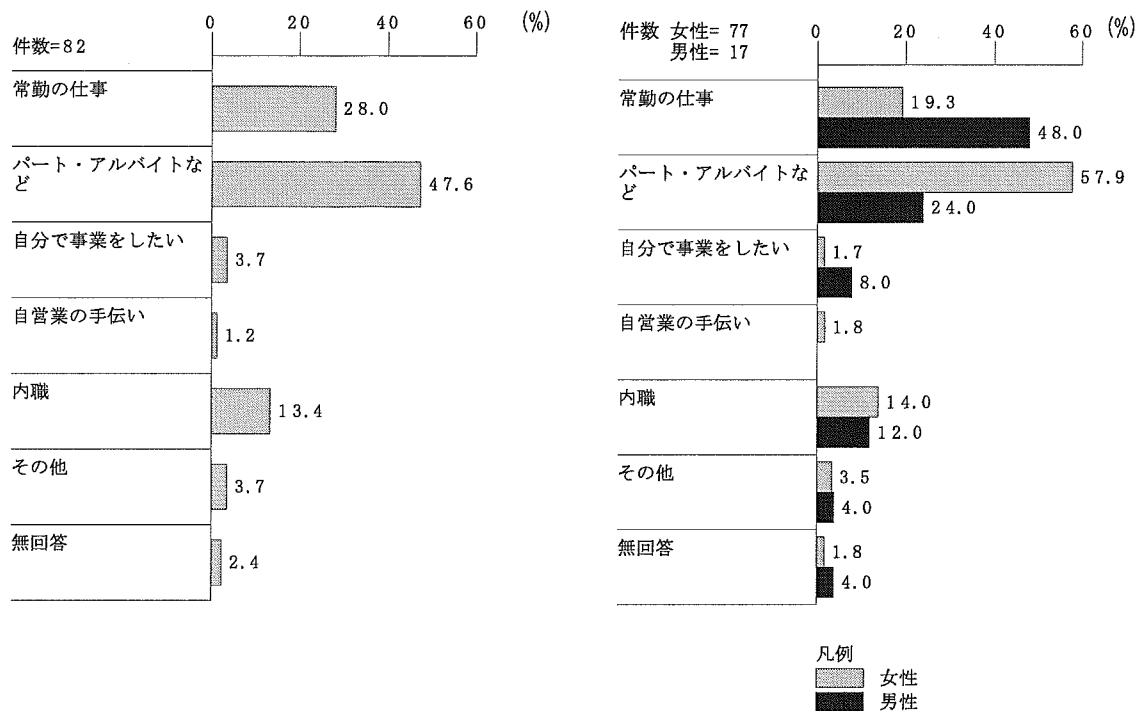
<問13-2で「1. 働きたい」と答えた方にお聞きします。>

問13-3 どのような形で働きたいとお考えですか。(1つだけ)

希望する就労形態は、「パート・アルバイトなど」が47.6%で最も多く、次いで「常勤の仕事」が28.0%となっている。

【性別】

女性より男性に「常勤の仕事」「自分で事業をしたい」が多くなっている。「パート・アルバイトなど」は男性(24.0%)よりも女性(57.9%)に多くみられる。



【年代別】

女性30歳代(73.3%)で「パート・アルバイトなど」が多くみられる。

	件数	希望する就労形態						
		常勤の仕事	パート・アルバイトなど	自分で事業をしたい	自営業の手伝い	内職	その他	無回答
全体	82	28.0	47.6	3.7	1.2	13.4	3.7	2.4
性・年代	女性20歳代	9	44.4	55.6	-	-	-	-
	30歳代	15	26.7	73.3	-	-	-	-
	40歳代	3	-	33.3	-	-	33.3	33.3
	50歳代	9	22.2	33.3	11.1	-	22.2	11.1
	60歳以上	19	-	63.2	-	5.3	26.3	5.3
	男性20歳代	6	83.3	16.7	-	-	-	-
	30歳代	1	100.0	-	-	-	-	-
	40歳代	2	100.0	-	-	-	-	-
	50歳代	5	60.0	20.0	20.0	-	-	-
	60歳以上	11	9.1	36.4	9.1	-	27.3	9.1

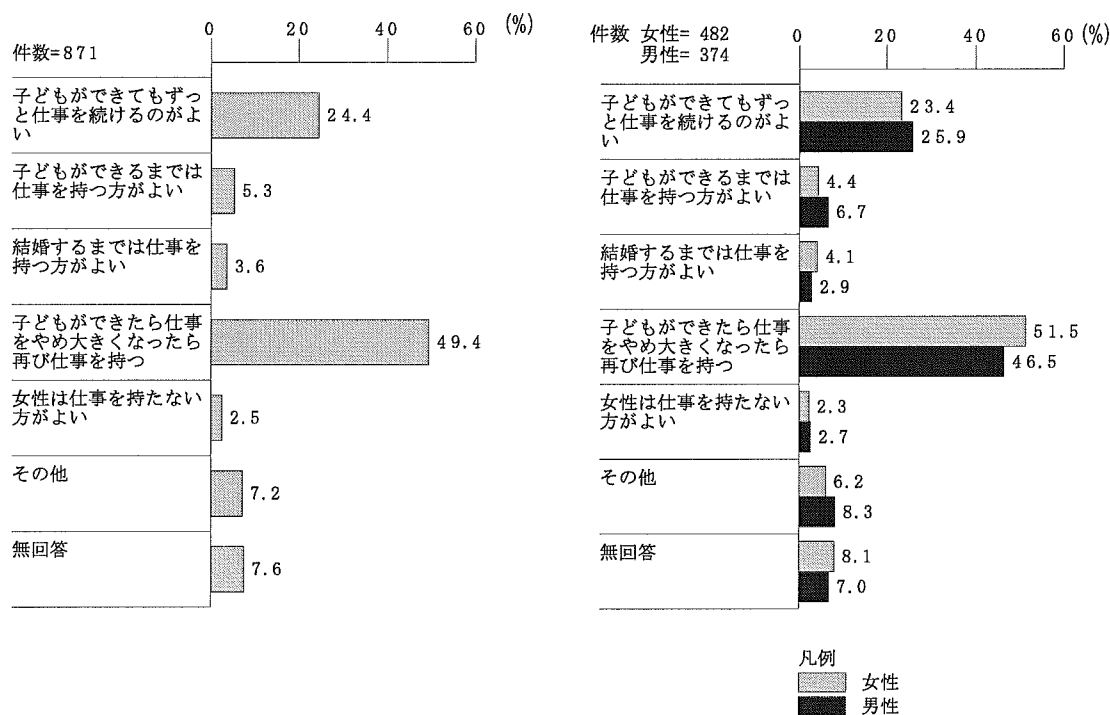
4-12 女性が仕事を持つことについての考え方

問14 あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか。(1つだけ)

女性が仕事を持つことについての考え方は、「子どもができたら仕事をやめ大きくなったら再び仕事を持つのがよい」といった“中断再就職型”が49.4%で最も多く、これに「子どもができてずっと仕事を続けるのがよい」といった“職業継続型”が24.4%で続いている。

【性別】

男性（46.5%）より女性（51.5%）に「子どもができたら仕事をやめ大きくなったら再び仕事を持つ」といった“中断再就職型が多くみられる。



【性・年代別】

男性20歳代（45.9%）で「子どもができてみずつと仕事を続けるのがよい」といった“職業継続型”が多く、「子どもができたなら仕事をやめ大きくなつたら再び仕事をもつのがよい」といった“中断再就職型”は、女性50歳代（63.4%）で多くなつてゐる。

		件数	女性が仕事を持つことについての考え方						
			子どもができてはいい仕事が続けるのがよい	子どもができてはいい仕事を持つ方がよい	結婚するまでは仕事を続ける方がよい	子どもができたなら仕事をやめ大きくなったら再び仕事を持つ方がよい	女性がよい仕事を持たない	その他	無回答
全 体		871	24.5	5.3	3.6	49.4	2.5	7.2	7.6
性・年代	女性20歳代	46	23.9	4.3	2.2	37.0	—	26.1	6.5
	30歳代	68	35.3	4.4	1.5	47.1	2.9	4.4	4.4
	40歳代	81	24.7	3.7	6.2	50.6	1.2	8.6	4.9
	50歳代	101	22.8	2.0	—	63.4	2.0	5.9	4.0
	60歳以上	181	18.2	6.1	7.2	50.8	3.3	0.6	13.8
	男性20歳代	37	45.9	—	2.7	27.0	2.7	16.2	5.4
	30歳代	46	28.3	6.5	4.3	43.5	—	17.4	—
	40歳代	61	19.7	6.6	—	47.5	1.6	13.1	11.5
	50歳代	82	31.7	9.8	6.1	41.5	2.4	4.9	3.7
	60歳以上	148	19.6	6.8	2.0	54.7	4.1	3.4	9.5

【固定的役割分担意識別】（問3「男は仕事、女は家庭」）

「子どもができてみずつと仕事を続けるのがよい」といった“職業継続型”は、固定的役割分担に否定的な人※1が38.1%で多く、「子どもができたなら仕事をやめ大きくなつたら再び仕事をもつのがよい」といった“中断再就職型”は、固定的役割分担に肯定的な人※2が58.0%で多くみられる。

		件数	女性が仕事を持つことについての考え方						
			子どもができてみずつと仕事を続けるのがよい	子どもができてみずつと仕事を続けるのがよい	結婚するまでは仕事を続ける方がよい	子どもができたなら仕事をやめ大きくなったら再び仕事をもつのがよい	女性がよい仕事をしたくない	その他	無回答
固定的役割分担意識	全体	871	24.5	5.3	3.6	49.4	2.5	7.2	7.6
	肯定的	350	14.6	6.3	5.4	58.0	4.9	2.6	8.3
	どちらともいえない	246	23.6	4.5	2.0	49.2	1.2	10.6	8.9
	否定的	270	38.1	4.4	2.6	38.9	0.7	10.4	4.8

※1「男は仕事、女は家庭」そうは思わない

※2「男は仕事、女は家庭」そう思う

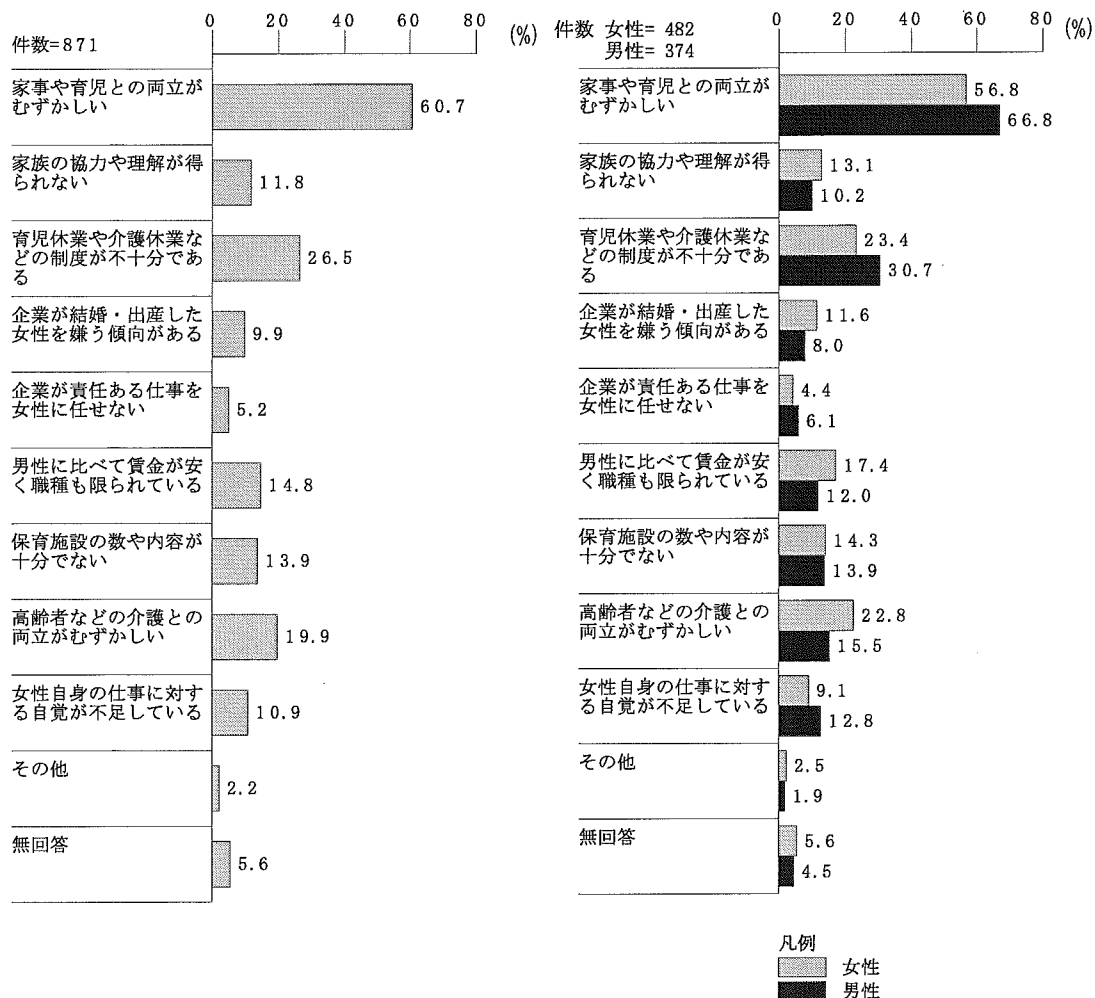
4-13 女性が仕事をもち続けていくうえでの障害

問15 女性が仕事をもち続けていくうえで、障害と思われることは何ですか。(2つまで)

女性が仕事をもち続けていくうえで障害と思うことは、「家事や育児との両立がむずかしい」と答えた人が60.7%で最も多く、次いで「育児休業や介護休業などの制度が不十分である」が26.5%、「高齢者などの介護との両立がむずかしい」が19.9%となっている。

【性別】

女性よりも男性に「家事や育児との両立がむずかしい」「育児休業や介護休業などの制度が不十分である」が多く、逆に「男性に比べて賃金が安く職種も限られている」「高齢者などの介護との両立がむずかしい」は男性よりも女性に多くみられる。



【性・年代別】

「家事や育児との両立がむずかしい」は女性20歳代、男性30歳代、40歳代で約7割、「育児休業や介護休業などの制度が不十分である」は男性の20歳代、30歳代で約4割、「高齢者などの介護との両立がむずかしい」は女性の50歳代、60歳以上で約3割を占めて多くなっている。

		件数	女性が仕事をもち続けていくうえでの障害										
			家事や育児との両立が むずかしい	家族の協力や理解が得 られない	育児休業や介護休業な どの制度が不十分であ る	企業が結婚・出産した 女性が嫌う傾向がある	企業が責任ある仕事を 女性に任せない	男性に比べて賃金が安 い	職種も限られている	保育施設の数や内容が 十分でない	高年齢者などの介護との 両立がむずかしい	女性自身の仕事に對する 自覚が不足している	その他
全 体		871	60.7	11.8	26.5	9.9	5.2	14.8	13.9	19.9	10.9	2.2	5.6
性・年代	女性20歳代	46	78.3	10.9	21.7	19.6	4.3	17.4	23.9	8.7	4.3	2.2	-
	30歳代	68	57.4	11.8	29.4	20.6	4.4	8.8	26.5	11.8	7.4	5.9	-
	40歳代	81	69.1	22.2	22.2	11.1	2.5	19.8	11.1	22.2	7.4	1.2	-
	50歳代	101	51.5	15.8	23.8	7.9	5.9	22.8	18.8	29.7	9.9	2.0	2.0
	60歳以上	181	47.5	8.8	21.0	8.3	4.4	17.1	6.1	27.6	11.6	2.2	13.8
	男性20歳代	37	62.2	21.6	37.8	16.2	5.4	13.5	5.4	10.8	8.1	2.7	2.7
	30歳代	46	73.9	6.5	37.0	8.7	-	17.4	13.0	8.7	10.9	2.2	2.2
	40歳代	61	75.4	14.8	19.7	6.6	13.1	9.8	14.8	16.4	13.1	3.3	3.3
	50歳代	82	68.3	9.8	31.7	11.0	8.5	13.4	14.6	11.0	15.9	1.2	1.2
	60歳以上	148	61.5	6.8	31.1	4.7	4.1	10.1	15.5	20.9	12.8	1.4	8.1

【性・婚姻別】

女性未婚で「家事や育児との両立がむずかしい」が75.0%と多くなっている。また、「育児休業や介護休業などの制度が不十分である」は男性未婚（40.4%）で多くみられる。

		件数	女性が仕事をもち続けていくうえでの障害										
			むずかしい家事や育児との両立が	家族の協力や理解が得られない	育児休業や介護休業などの制度が不十分である	女性が結婚・出産した企業に嫌う傾向がある	女性が責任ある仕事を企業に任せない	男性に比べて賃金が安い	保育施設の数や内容が十分でない	両立がむずかしい高齢者などの介護との	女性自身の仕事に対する自覚が不足している	その他	無回答
全 体		871	60.7	11.8	26.5	9.9	5.2	14.8	13.9	19.9	10.9	2.2	5.6
性・婚姻	女性既婚	324	57.1	13.3	23.1	11.4	4.3	16.4	16.4	22.2	9.3	2.8	4.9
	未婚	56	75.0	8.9	23.2	16.1	7.1	16.1	19.6	16.1	7.1	1.8	—
	離婚・死別等により配偶者なし	75	49.3	16.0	28.0	10.7	1.3	24.0	6.7	29.3	13.3	2.7	2.7
	男性既婚	278	69.4	8.3	29.9	7.6	7.2	12.9	15.5	14.0	14.4	2.2	2.9
	未婚	52	53.8	21.2	40.4	15.4	3.8	11.5	7.7	15.4	11.5	1.9	3.8
	離婚・死別等により配偶者なし	35	65.7	11.4	28.6	2.9	2.9	2.9	11.4	25.7	2.9	—	14.3

【性・共働き別】

男性で共働きをしていない人に「家事や育児との両立がむずかしい」「育児休業や介護休業などの制度が不十分である」が多くみられる。

		件数	女性が仕事をもち続けていくうえでの障害										
			家事や育児との両立がむずかしい	家族の協力や理解が得られない	育児休業や介護休業などの制度が不十分である	企業が結婚・出産した女性を嫌う傾向がある	企業が責任ある仕事を女性に任せない	男性に比べて賃金が安い	職種も限られている	保育施設の数や内容が十分でない	高齢者などの介護との両立がむずかしい	女性自身の仕事に対する自覚が不足している	その他
全 体		871	60.7	11.8	26.5	9.9	5.2	14.8	13.9	19.9	10.9	2.2	5.6
性・共働き	女性共働きをしている	179	61.5	14.0	19.6	11.2	3.4	17.9	16.8	21.2	9.5	2.2	5.6
	共働きをしていない	116	53.4	12.1	27.6	8.6	5.2	16.4	15.5	25.0	9.5	2.6	6.0
	男性共働きをしている	148	65.5	10.8	24.3	9.5	9.5	14.9	15.5	12.2	18.2	1.4	4.1
	共働きをしていない	106	77.4	7.5	36.8	4.7	3.8	7.5	13.2	14.2	10.4	2.8	2.8

5 高齢化・福祉について

5-1 老後の不安

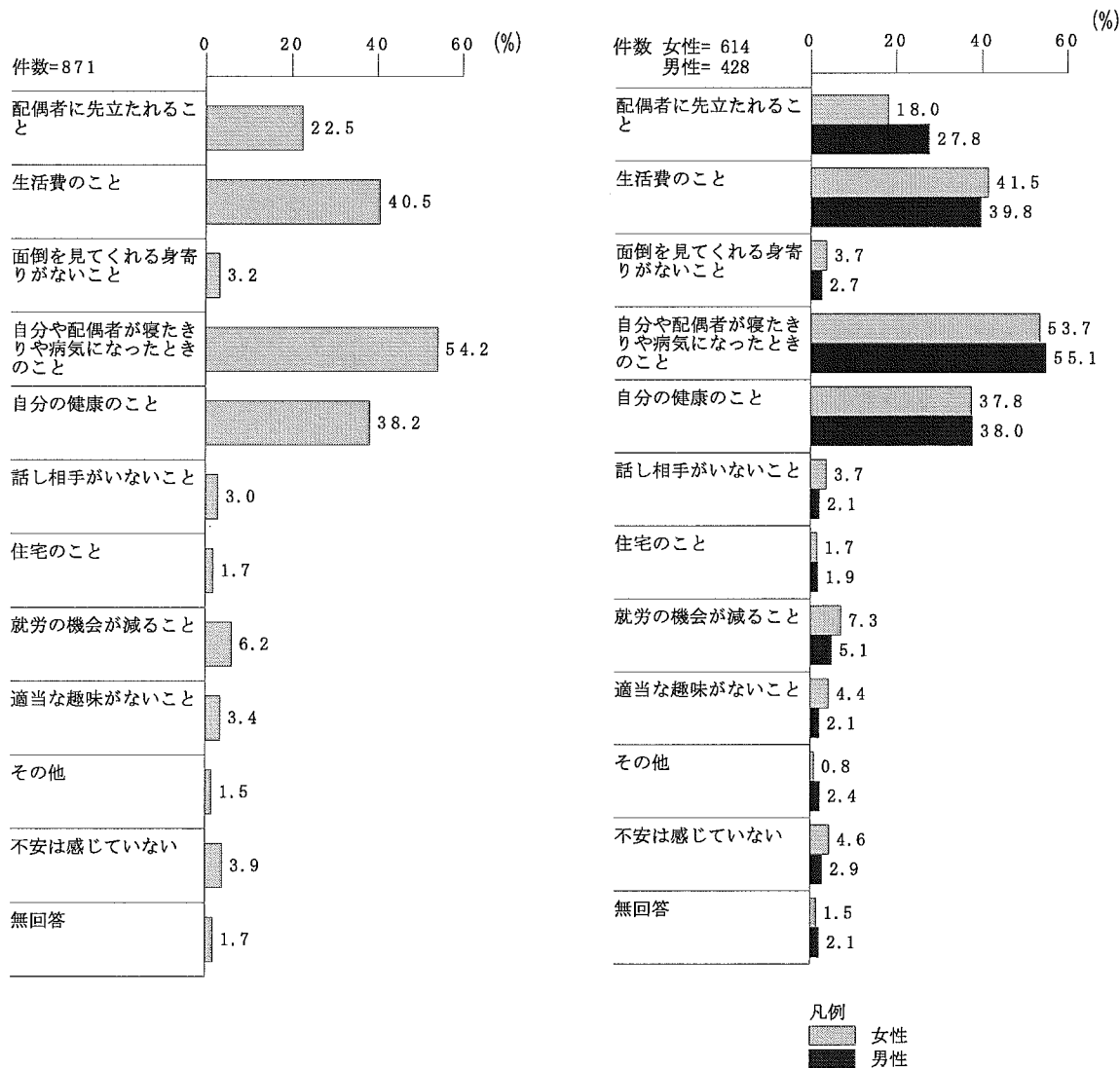
問16 あなたは自分の老後について、どのような不安を感じていますか。(2つまで)

老後の不安は、「自分や配偶者が寝たきりや病気になったときのこと」が54.2%で最も多く、次いで「生活費のこと」が40.5%、「自分の健康のこと」が38.2%、「配偶者に先立たれること」が22.5%となっている。

【性別】

女性より男性に「配偶者に先立たれること」が多くみられる。

(女性18.0%/男性27.8%)



【性・年代別】

男性60歳以上（38.5％）で「配偶者に先立たれること」が多く、「生活費のこと」は女性20歳代（73.9％）で多くなっている。「自分の健康のこと」は男女ともに50歳代以上で多くみられる。

		件数	老後の不安											
			と配偶者に先立たれること	生活費のこと	面倒を見にくる身寄りがないこと	自分や配偶者が寝たきりや病気になったとき	自分の健康のこと	話し相手がいないこと	住宅のこと	就労の機会が減ること	適当な趣味がないこと	その他	不安は感じていない	無回答
全 体		871	22.5	40.5	3.2	54.2	38.2	3.0	1.7	6.2	3.4	1.5	3.9	1.7
性・年代	女性20歳代	46	13.0	73.9	4.3	50.0	15.2	-	8.7	6.5	2.2	-	6.5	-
	30歳代	68	23.5	55.9	2.9	52.9	30.9	1.5	1.5	4.4	-	1.5	4.4	-
	40歳代	81	17.3	51.9	3.7	64.2	22.2	1.2	-	14.8	3.7	1.2	6.2	-
	50歳代	101	11.9	37.6	4.0	55.4	46.5	3.0	2.0	8.9	6.9	-	3.0	-
	60歳以上	181	20.4	24.9	3.9	49.2	48.6	7.2	0.6	3.9	5.5	1.1	4.4	3.9
	男性20歳代	37	13.5	62.2	-	45.9	24.3	-	5.4	18.9	-	2.7	2.7	2.7
	30歳代	46	17.4	65.2	-	58.7	32.6	-	2.2	6.5	2.2	2.2	-	2.2
	40歳代	61	16.4	54.1	4.9	47.5	31.1	1.6	4.9	4.9	4.9	3.3	4.9	3.3
	50歳代	82	29.3	37.8	4.9	59.8	40.2	1.2	1.2	3.7	1.2	2.4	2.4	-
	60歳以上	148	38.5	21.6	2.0	56.8	44.6	4.1	-	2.0	2.0	2.0	3.4	2.7

【性・婚姻別】

女性未婚（73.2％）で「生活費のこと」が多く、「配偶者に先立たれること」は男性既婚（33.8％）で多くなっている。また、「自分や配偶者が寝たきりや病気になったときのこと」は男女ともに既婚で多くみられる。

		件数	老後の不安											
			と配偶者に先立たれること	生活費のこと	面倒を見にくる身寄りがないこと	自分や配偶者が寝たきりや病気になったとき	自分の健康のこと	話し相手がいないこと	住宅のこと	就労の機会が減ること	適当な趣味がないこと	その他	不安は感じていない	無回答
全 体		871	22.5	40.5	3.2	54.2	38.2	3.0	1.7	6.2	3.4	1.5	3.9	1.7
性・婚姻	女性既婚	324	21.3	38.3	2.5	62.7	35.2	0.6	0.9	7.7	3.7	0.9	4.3	0.9
	未婚	56	8.9	73.2	10.7	41.1	26.8	1.8	7.1	7.1	3.6	—	5.4	—
	離婚・死別等により配偶者なし	75	8.0	36.0	5.3	30.7	56.0	16.0	1.3	8.0	9.3	1.3	5.3	—
	男性既婚	278	33.8	37.4	1.1	61.9	35.6	0.7	1.8	4.0	2.2	2.5	2.5	1.4
	未婚	52	5.8	59.6	5.8	42.3	44.2	—	3.8	13.5	1.9	1.9	1.9	1.9
	離婚・死別等により配偶者なし	35	11.4	37.1	11.4	22.9	42.9	17.1	—	2.9	2.9	2.9	8.6	5.7

5-2 介護は女性の役割との考え方

問17 家族等の介護は女性の役割となりがちですが、それについてどう考えますか。
(1つだけ)

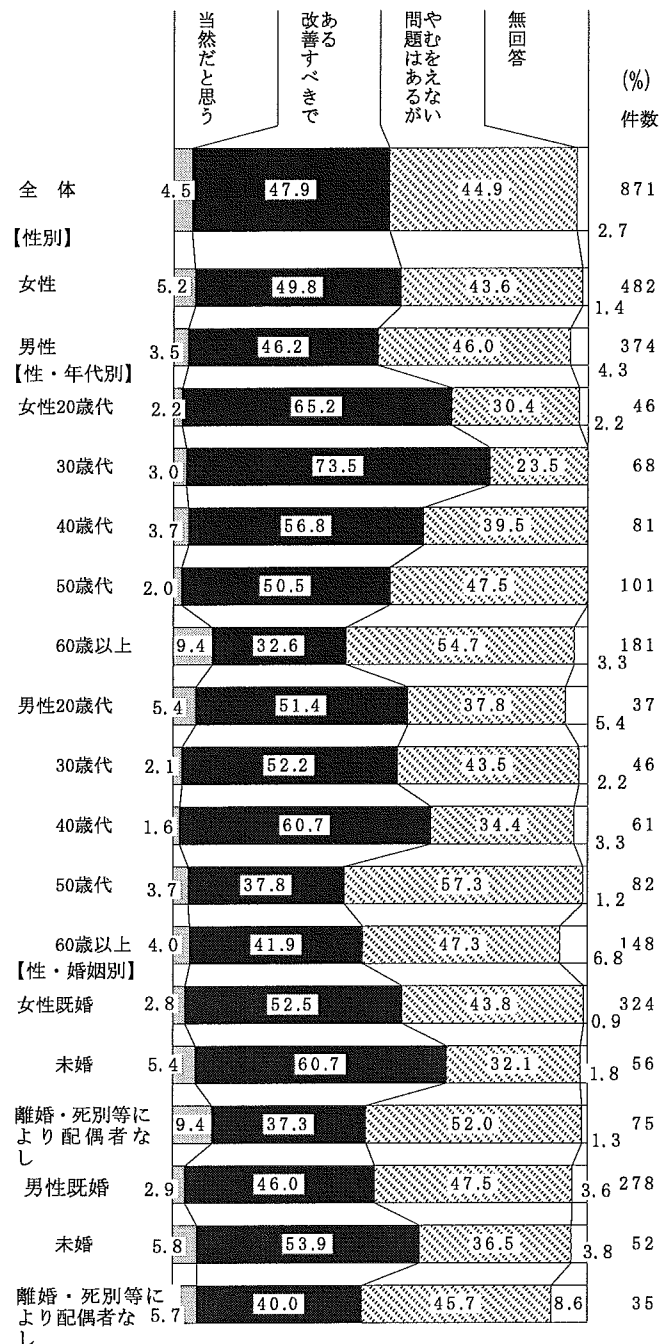
一般的に、介護は女性の役割となりがちなことについてたずねたところ、「改善すべきである」(47.9%)と「問題はあるがやむをえない」(44.9%)と答えた人の割合が拮抗している。また「当然だと思う」と答えた人は4.5%となっている。

【性別】

男女とも顕著な差はみられない。

【性・年代別】

女性30歳代で「改善すべきである」が最も多く(73.5%)7割以上を占めている。次に女性20歳代(65.2%)、男性40歳代(60.7%)が6割以上、女性40歳代、50歳代、男性20歳代、30歳代が5割以上を占めている。「問題はあるがやむをえない」は女性60歳以上(54.7%)、男性50歳代(57.3%)で5割以上を占めている。



6 配偶者等からの暴力について

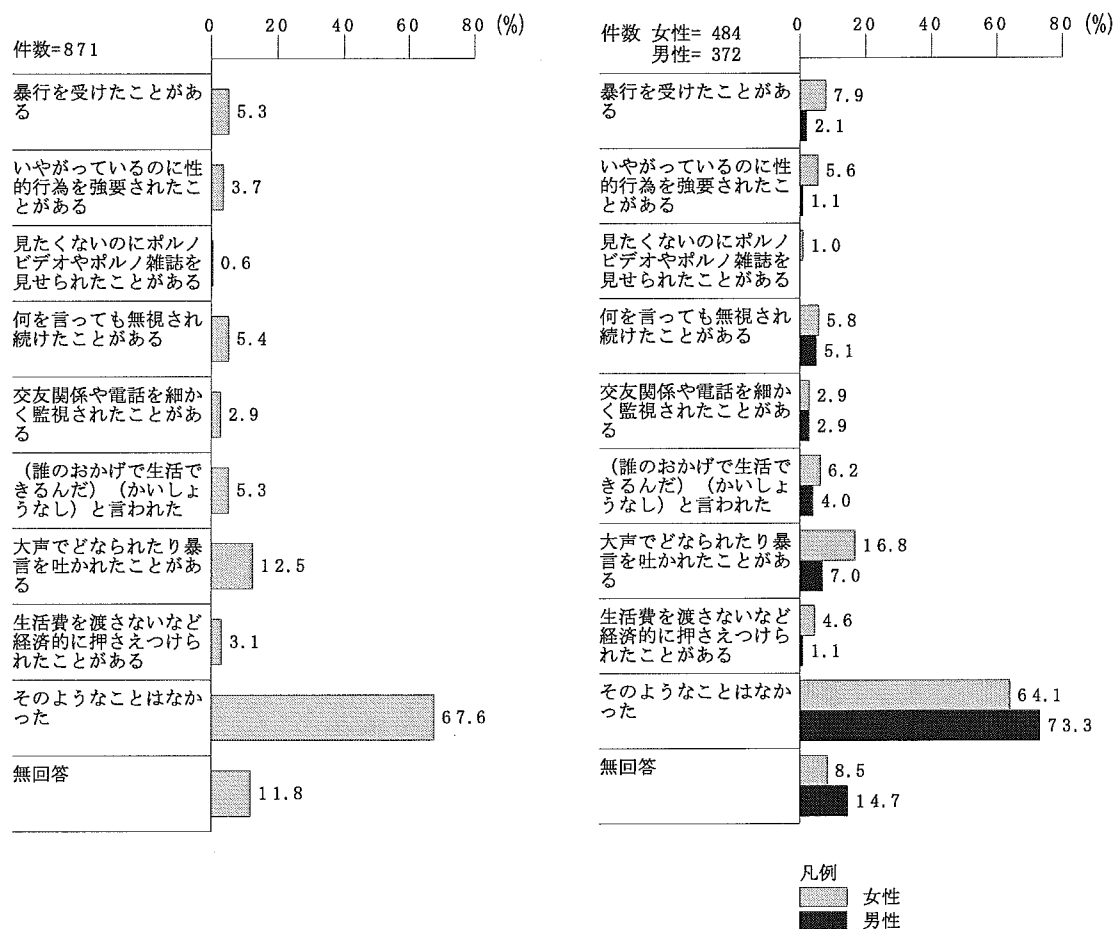
6-1 夫または妻や恋人からの暴力を受けた経験

問18 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。(いくつでも)

暴力などを受けた経験は、「そのようなことはなかった」と答えた人は67.6%となっている。一方、何らかの暴力を“受けたことがある※”人は20.6%となっている。暴力を受けた内容については、「大声でどなられたり暴言を吐かれたことがある」が12.5%、「何を言っても無視され続けたことがある」が5.4%、「暴行を受けたことがある」と「(誰のおかげで生活できるんだ)(かいしようなし)と言われたことがある」がそれぞれ5.3%となっている。

【性別】

何らかの暴力を“受けたことがある※”人は、男性が12.0%で約1割、女性が27.4%で約3割となっている。また、「大声でどなられたり暴言を吐かれたことがある」は、女性で16.8%と1割以上を占めている。



※ 全体から「そのようなことはなかった」と「無回答」を除いた割合

6-2 暴力などを受けた際の相談相手

<問18で「1～8」のいずれかに答えた方にお聞きします。>

問18-1 夫または妻や恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

暴力を受けた際の相談の有無については、「どこ（誰）にも相談しなかった」人が63.1%、「相談した」人が33.0%となっている。

【性別】

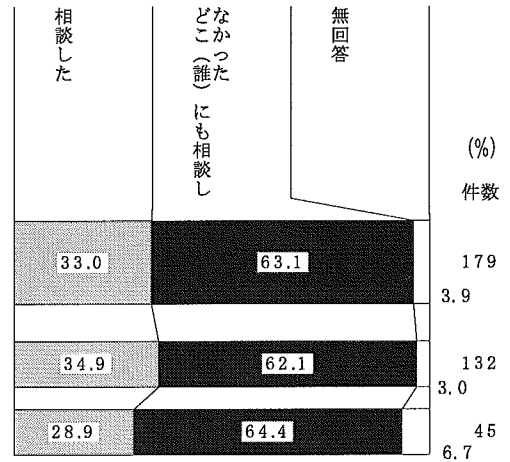
男性よりも女性に「相談した」人が多くみられる。

（女性34.9%／男性28.9%）

全 体

女性

男性



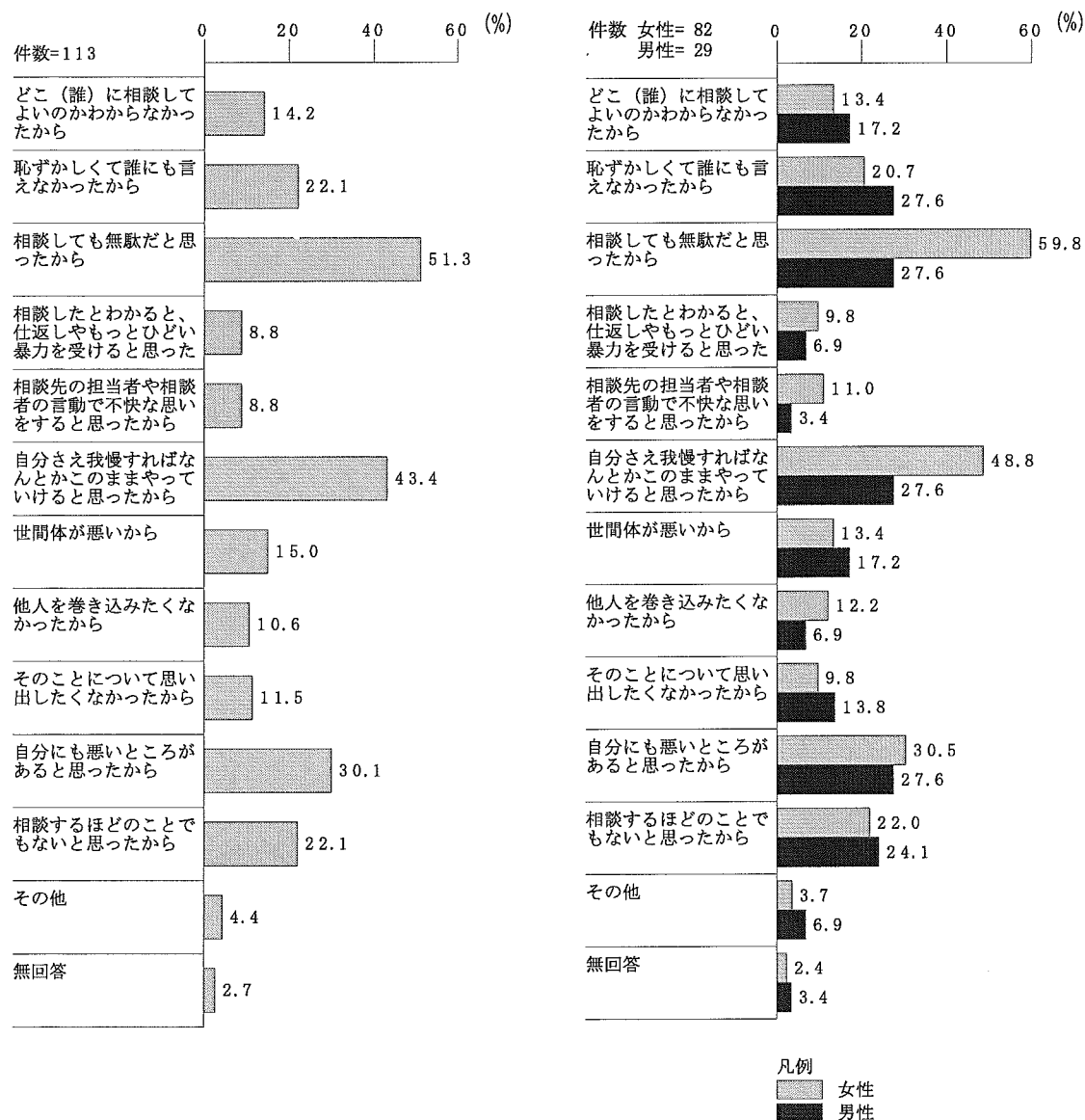
6-3 相談をしなかった理由

<問18-1で「2. どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きます。>
 問18-2 どこ（誰）にも相談しなかったのは、なぜですか。（いくつでも）

どこ（誰）にも相談しなかった理由は、「相談しても無駄だと思ったから」と答えた人が51.3%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思ったから」が43.4%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が30.1%、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」と「相談するほどのことでもないと思ったから」がそれぞれ22.1%となっている。

【性別】

男性より女性に「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思ったから」「相談先の担当者や相談者の言動で不快な思いををすると思ったから」が多く、逆に「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」は女性より男性に多くみられる。

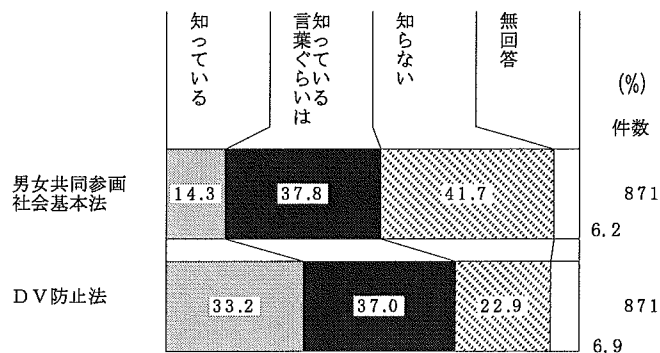


7 男女共同参画社会について

7-1 男女共同参画に関する用語の認知度

問19 あなたは次の用語についてご存知ですか。

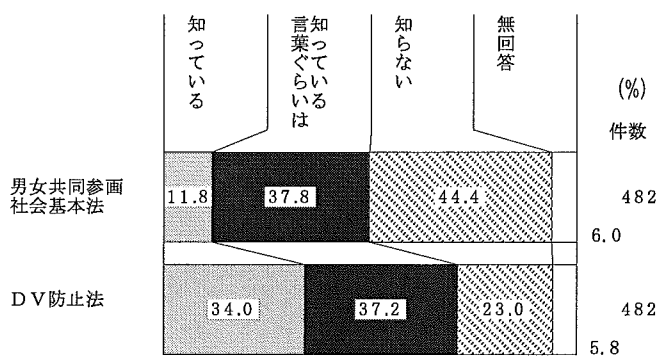
用語の認知については、「知っている」と答えた人は、「男女共同参画社会基本法」が14.3%、「DV防止法」が33.2%となっている。一方、「知らない」と答えた人は、「男女共同参画社会基本法」では41.7%、「DV防止法」では22.9%となっている。



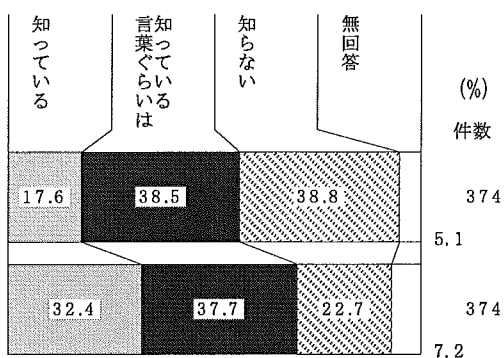
【性別】

女性より男性に「男女共同参画社会基本法」を知っていると答えた人が多くなっている。「DV防止法」は、性別による大きな差はみられない。

【女性】



【男性】



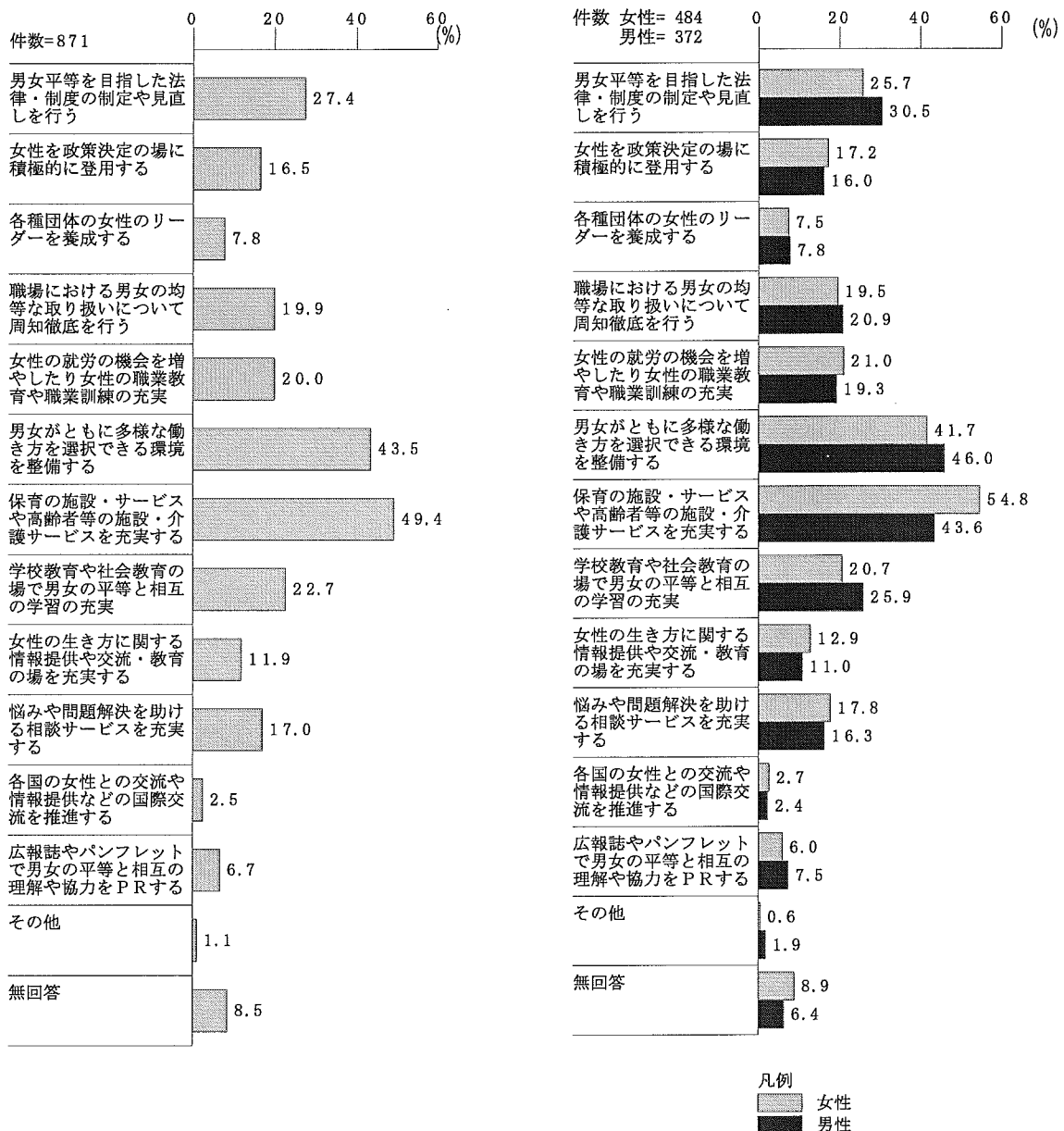
7-2 男女共同参画社会実現のために行政に望むこと

問20 あなたは男女共同参画社会の実現のために、行政（国・県・市）はどんなことに力を入れていくべきだと思いますか。（3つまで）

男女共同参画社会を実現するために行政に望むことは、「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する」と答えた人が49.4%で最も多く、次いで「男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する」が43.5%、「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」が27.4%、「学校教育や社会教育の場で男女の平等と相互の学習の充実」が22.7%、「女性の就労の機会を増やしたり女性の職業教育や職業訓練の充実」が20.0%となり、これらが上位5項目となっている。

【性別】

女性より男性に「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」が多くなっているのに対し、「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する」は男性（43.6%）よりも女性（54.8%）に多くなっている



【性・年代別】

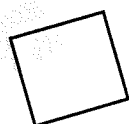
男性 30 歳代で、「男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する」が (65.2%) で多く、「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する」は女性 20 歳代、30 歳代が 6 割以上で多くなっている。

		件数	男女共同参画社会実現のために行政に望むこと																		無回答
			男女・平等を指しを制度の制定や見直しを行う	積極的に女性を政策決定の場に行う	各種団体の女性を育成する	職場等における男女の均等な取扱い	周知徹底を行う	女性の就業機会を増やす	育や職業訓練の充実	男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する	保育・高齢者等の施設・サービス	学校・教育や社会教育の充実	場や男女の平等と相互の学習の充実	女性の生き方に関する情報提供や交流・教育	悩みや問題解決を助ける	相談サービス	各国の女性との国際交流や情報提供	広報誌やパンフレット	理解や協力をPRする	その他	
性・年代	全体	871	27.4	16.5	7.8	19.9	20.0	43.5	49.4	22.7	11.9	17.0	2.5	6.7	1.1	8.5					
	女性20歳代	46	30.4	15.2	8.7	32.6	21.7	47.8	63.0	19.6	8.7	17.4	2.2	2.2	-	2.2					
	30歳代	68	13.2	20.6	5.9	27.9	23.5	51.5	67.6	19.1	11.8	16.2	-	-	-	2.9					
	40歳代	81	35.8	21.0	8.6	22.2	22.2	43.2	48.1	27.2	13.6	8.6	1.2	7.4	1.2	2.5					
	50歳代	101	31.7	19.8	5.0	23.8	24.8	40.6	54.5	19.8	13.9	17.8	3.0	5.0	1.0	5.9					
	60歳以上	181	21.5	13.3	8.8	8.8	16.6	36.5	50.3	19.9	13.3	23.2	4.4	8.8	0.6	17.7					
	男性20歳代	37	27.0	10.8	8.1	32.4	24.3	51.4	48.6	24.3	5.4	16.2	-	5.4	2.7	5.4					
	30歳代	46	32.6	13.0	4.3	26.1	19.6	65.2	47.8	13.0	15.2	13.0	8.7	-	2.2	2.2					
	40歳代	61	37.7	19.7	9.8	19.7	14.8	29.5	41.0	27.9	11.5	23.0	3.3	9.8	4.9	4.9					
	50歳代	82	26.8	19.5	12.2	14.6	26.8	51.2	31.7	25.6	14.6	13.4	1.2	7.3	1.2	7.3					
60歳以上	148	29.7	14.9	5.4	20.3	15.5	42.6	48.6	29.7	8.8	16.2	1.4	9.5	0.7	8.1						

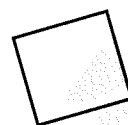
【性・年代別】

上位5項目についてみると、「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する」は、すべての性・年代層において第1位または第2位のいずれかに入っている。特に女性は全ての年代層で1位になっている。また、「男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備」は男性の20歳代、30歳代、50歳代では1位を占め、女性はすべての年代層で2位となっている。また、「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」はほとんどの性・年代層において上位5項目に入っている。

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全体	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する (49.4%)	男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備 (43.5%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う (27.4%)	学校教育や社会教育の場で男女の平等と相互の学習の充実 (22.7%)	女性の就労の機会を増やしたり職業教育や職業訓練を充実する (20.0%)
女性	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する (54.8%)	男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備 (41.7%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う (25.7%)	女性の就労の機会を増やしたり職業教育や職業訓練を充実する (21.0%)	学校教育や社会教育の場で男女の平等と相互の学習の充実 (20.7%)
男性	男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備 (46.0%)	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する (43.6%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う (30.5%)	学校教育や社会教育の場で男女の平等と相互の学習の充実 (26.9%)	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う (20.9%)
女性20歳代	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する (63.0%)	男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備 (47.8%)	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う (32.6%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う (30.4%)	女性の就労の機会を増やしたり職業教育や職業訓練を充実する (21.7%)
30歳代	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する (67.6%)	男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備 (51.5%)	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う (27.9%)	女性の就労の機会を増やしたり職業教育や職業訓練を充実する (23.5%)	女性を政策決定の場に積極的に登用する (20.6%)
40歳代	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する (48.1%)	男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備 (43.2%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う (35.8%)	学校教育や社会教育の場で男女の平等と相互の学習の充実 (27.2%)	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う (22.2%)
50歳代	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する (54.5%)	男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備 (40.6%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う (31.7%)	女性の就労の機会を増やしたり職業教育や職業訓練を充実する (24.0%)	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う (23.8%)
60歳以上	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する (50.3%)	男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備 (36.5%)	悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する (23.2%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う (21.5%)	学校教育や社会教育の場で男女の平等と相互の学習の充実 (19.9%)
男性20歳代	男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備 (51.4%)	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する (48.6%)	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う (32.4%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う (27.0%)	女性の就労の機会を増やしたり職業教育や職業訓練を充実する (24.3%)
30歳代	男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備 (65.2%)	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する (47.8%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う (32.6%)	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う (26.1%)	女性の就労の機会を増やしたり職業教育や職業訓練を充実する (19.0%)
40歳代	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する (41.0%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う (37.7%)	男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備 (29.5%)	学校教育や社会教育の場で男女の平等と相互の学習の充実 (27.9%)	悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する (23.0%)
50歳代	男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備 (51.2%)	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する (31.7%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う (26.8%)	女性の就労の機会を増やしたり職業教育や職業訓練を充実する (26.0%)	学校教育や社会教育の場で男女の平等と相互の学習の充実 (25.6%)
60歳以上	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する (48.6%)	男女がともに多様な働き方を選択できる環境整備 (42.6%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う (29.7%)	学校教育や社会教育の場で男女の平等と相互の学習の充実 (29.7%)	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う (20.3%)



資料編



男女共同参画に関するアンケート調査

アンケート調査ご協力をお願い

市民の皆さまには、日頃から市政全般にわたり、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

海津市では、男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮し、いきいきと暮らすことのできる男女共同参画社会の実現をめざして、さまざまな取組みを実施しています。

このたび、「海津市男女共同参画プラン」を策定するにあたり、市民の皆様のお考えやご意見をお伺いしながら計画の策定を進めていくために、アンケート調査を実施することとなりました。そこで、海津市にお住まいの満20歳以上の市民の皆様から、無作為に抽出しました2,000人の方々にお願いしています。

皆さまからいただいたご意見は、事業を効果的に進めるうえでの資料とさせていただきますので、誠に恐縮でございますが、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、この調査は無記名でご回答いただき、調査結果はコンピュータにより統計的に処理いたしますので、個別の回答等を公表してご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、よろしくお願いいたします。

平成17年12月

海津市長 松永 清彦

ご記入に際してのお願い

1. 回答は、封筒のあて名のご本人がご記入ください。
2. 番号を○印で囲んでください。
3. 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、案内にそってお答えください。
4. 記入後は、無記名のまま、同封の返信用封筒に入れて、12月20日（火）までにポストへお入れください（切手は不要です）。
5. この調査についてのご不明な点等ありましたら、下記までお問い合わせください。

海津市役所 海津庁舎 企画部 企画課 電話（0584）53—1111（内線2214）

担当：中島 浩子・徳永 暢子

(1) あなた自身のことについて

※アンケートを統計的に分析するために、必ずご記入をお願いいたします。

あなたの性別	1．男性 2．女性
あなたの年齢	1．20歳代 2．30歳代 3．40歳代 4．50歳代 5．60歳以上
あなたの職業	1．勤め人（パートタイム・アルバイトなどを含む） 2．農林漁業 3．自営業 4．自由業 5．内職 6．無職 7．学生 8．その他（具体的に：_____）
就労形態 （勤め人と答えた方）	1．常勤の仕事 2．非常勤の仕事（パート・アルバイトなど） 3．その他（具体的に：_____）
婚姻の状況	1．既婚 2．未婚 3．離婚・死別等により配偶者なし
共働きの有無 （結婚していると答えた方）	1．している 2．していない
お子さんの有無	1．いる （ _____ 人） 2．いない
家族構成	1．ひとり暮らし 2．夫婦のみ（一世代家族） 3．親と子ども（二世代家族） 4．親と子どもと孫（三世代家族） 5．その他（具体的に：_____）
お住まいの地域	1．海津市海津町 2．海津市平田町 3．海津市南濃町

(2) 男女の平等感について

《全員の方にお聞きします。》

問 1. 社会全体でみた場合は、男女の地位は平等になっていると思いますか。
次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 男性の方が非常に優遇されている
2. どちらかといえば男性の方が優遇されている
3. 平等である
4. どちらかといえば女性の方が優遇されている
5. 女性の方が非常に優遇されている

《全員の方にお聞きします。》

問2. 各分野における男女の地位は平等になっていると思いますか。

A～Fのそれぞれの項目について各1つずつ選んでください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
A. 家庭生活	1	2	3	4	5
B. 職場	1	2	3	4	5
C. 学校教育の場	1	2	3	4	5
D. 地域活動	1	2	3	4	5
E. 法律や制度	1	2	3	4	5
F. しきたりや習慣	1	2	3	4	5

(3) 家庭生活・学校教育などについて

《全員の方にお聞きします。》

問3. あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。

次の中から1つだけ選んでください。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそうは思わない
5. そうは思わない

《結婚している方にお聞きします。》

問4. あなたの家庭では、次にあげるような家事や育児などについて、主に誰が行っていますか。

A～Fのそれぞれの項目について各1つずつ選んでください。

	主として夫	両方同じくらい	主として妻	その他の人	家族全員	該当しない
A. 掃除	1	2	3	4	5	—
B. 洗濯	1	2	3	4	5	—
C. 食事のしたく	1	2	3	4	5	—
D. 食事の後片付け	1	2	3	4	5	—
E. 家計の管理	1	2	3	4	5	—
F. ごみ出し	1	2	3	4	5	—
G. 育児、乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
H. 看病や介護	1	2	3	4	5	6

《全員の方にお聞きします。》

問 5. あなたは、子育てについてどのような考えを持っていますか。
次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性を尊重するのがよい
2. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい
3. その他（具体的に： _____）
4. わからない

《結婚していない方にお聞きします。》

問 6. あなたは、自分自身の結婚についてどのようにお考えですか。
次の中から 1 つだけ選んでください。

1. もう少し仕事や勉強などをしてから、いずれ結婚したい
2. 結婚したいと思っているが、まだよい相手にめぐりあわない
3. 結婚の予定がある
4. 結婚したいと思っているが、仕事などとの両立がむずかしい
5. 結婚するつもりがない

《問 6 で「5. 結婚するつもりがない」と答えた方にお聞きします。》

問 6-1. その理由は何ですか。
次の中から いくつでも 選んでください。

1. 仕事や趣味に専念したいから
2. 結婚生活に伴う家事・育児にしばられたくないから
3. 今の自由や気楽さを失いたくないから
4. 結婚生活に伴う親、兄弟との関わりを避けたいから
5. 結婚の必要性を感じないから
6. その他（具体的に： _____）

《全員の方にお聞きします。》

問 7. あなたは、男女平等の人間関係をつくるために、学校教育の場で力を入れることは何だと思えますか。
次の中から主なものを 2 つまで選んでください。

1. 出席簿の順番など、男女を分ける習慣を見直す
2. 男女の別なく能力を生かせるよう諸活動を充実する
3. 教員に男女平等についての研修を推進する
4. 管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく
5. 男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
6. その他（具体的に： _____）

(4) 社会参加・参画について

《全員の方にお聞きします。》

問 8. 仕事・家庭生活・地域活動の関係について、現在の状況では、あなたはどれに当たりますか。

次の中から1つだけ選んでください。

1. 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念している
2. 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている
3. 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させている
4. 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させている
5. 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念している

《全員の方にお聞きします。》

問 9. 「男性はもっと地域社会の活動や家庭生活における活動に参画する必要がある」という考え方がありますが、あなたはこの考え方についてどのように思いますか。

次の中から1つだけ選んでください。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. そう思う | 4. どちらかといえばそうは思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 5. そうは思わない |
| 3. どちらともいえない | |

《全員の方にお聞きします。》

問 10. あなたは、国や県・市政において、政策や企画の方針を決める際に女性の意見をもっと反映するようにしたほうがよいと思いますか。

次の中から1つだけ選んでください。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. そう思う | 4. どちらかといえばそうは思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 5. そうは思わない |
| 3. どちらともいえない | |

(5) 仕事について

《全員の方にお聞きします。》

問 11. あなたは、収入をとまなう仕事をしていますか。(パート、自営業、臨時、内職などを含みます。)

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

《問 11 で「1. している」と答えた方にお聞きします。》

問 11-1. あなたが働いているのは、どのような理由からですか。
次の中から主なものを 2 つまで 選んでください。

1. 生計を維持するため
2. 家計の補助のため
3. 将来に備えて貯蓄するため
4. 自分で自由になるお金を得るため
5. 自分の能力・資格を活かすため
6. 働くことが生きがいだから
7. 社会や他人とのつながりを持つため
8. 時間に余裕があるため
9. 働くのがあたりまえだから
10. 経済的に自立するため
11. その他（具体的に：

)

《問 11 で「1. している」と答えた方にお聞きします。》

問 11-2. あなたは、現在何か役職に就いていますか。

1. はい

2. いいえ

《問 11 で「1. している」と答えた方にお聞きします。》

問 11-3. あなたが働いている職場は、女性にとって働きやすいと思いますか。
次の中から 1 つだけ 選んでください。

1. 働きやすいと思う
2. どちらかといえば働きやすいと思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば働きやすいとは思わない
5. 働きやすいとは思わない

《問 11 で「1. している」と答えた方にお聞きします。》

問 11-4. あなたの職場では次のような男女格差がありますか。

A～I のそれぞれの項目について、各 1 つずつ選んでください。

	そう 思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえな い	どちらか といえ ばそう は思わ ない	そうは 思わ ない
A. 募集や採用人数で女性の方が不利である	1	2	3	4	5
B. 採用の時点で仕事内容の差がつけられる	1	2	3	4	5
C. 女性は昇進・昇格が遅く、なかなか管理職につけない	1	2	3	4	5
D. 女性が働くことや、能力が正當に評価されない	1	2	3	4	5
E. お茶くみなどの雑用は女性がすることが多い	1	2	3	4	5
F. 結婚退職制、職場結婚退職制、出産退職制がある（慣行を含む）	1	2	3	4	5
G. 女性が働くことや、能力について上司の認識が低い	1	2	3	4	5
H. 女性は男性より、研修や教育訓練を受ける機会が少なく、出張や視察等の機会が少ない	1	2	3	4	5
I. 同期や、同年齢で入社した男性と賃金や昇給の差がある	1	2	3	4	5

《現在、農林漁業または自営業で、家族従業者として働いてみえる方にお聞きします。》

問 1 2. 職場の状況についてお聞きします。

A～D のそれぞれの項目について
各 1 つずつ選んでください。

	は い	いいえ
A. 経営方針に意見がいえ	1	2
B. 仕事に定休日がある	1	2
C. 1 日の就業時間が決まっている	1	2
D. 給与等の報酬を受けている	1	2

《現在、農林漁業または自営業で、家族従業者として働いてみえる方にお聞きします。》

問 12-1. 家族経営協定について、どのようにお考えですか。

次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 家族経営協定を締結したい 2. 既に家族経営協定を締結しており、今後もこれを維持して必要に応じて見直しをしたい 3. 家族間で話し合いをすればよいので、家族経営協定は必要ない 4. その他（具体的に：	
--	--

*家族経営協定とは、それぞれの役割分担を明確にし、労働報酬や労働時間、休日の働き方などを家族間で約束することです。また、家族経営協定書は、家族それぞれが納得して署名捺印されます。

《仕事をしていない方にお聞きします。》

問13. あなたは、過去に収入になる仕事をしたことがありますか。

1. はい

《問 13 で「1. はい」と答えた方にお聞きします。》

問 13-1. その仕事をやめた理由は何ですか。

次の中から主なものを2つまで選んでください。

1. 結婚のため
2. 出産・育児のため
3. 親や病気の家族の介護をするため
4. 家族の理解・協力が得にくいから
5. 労働条件に不満があったから
6. 仕事の内容が合わなかったから
7. 会社の都合で
8. 大学などに行ったり資格を取るため
9. 家業に就くため
10. 定年になったから
11. その他（具体的に： ）

《問 13 で「1. はい」と答えた方にお聞きします。》

問 13-2. 今後、働きたいと思いますか。

1. 働きたい 2. 働きたくない 3. わからない

《問 13-2 で「1. 働きたい」と答えた方にお聞きします。》

問 13-3. どのような形で働きたいとお考えですか。

次の中から1つだけ選んでください。

1. 常勤の仕事
2. パート、アルバイトなど
3. 自分で事業をしたい
4. 自営業の手伝い
5. 内職
6. その他（具体的に：_____）

《全員の方にお聞きします。》

問14. あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか。

次の中から1つだけ選んでください。

1. 子どもができて、ずっと仕事を続けるのがよい
2. 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
3. 結婚するまでは、仕事を持つ方がよい
4. 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つのがよい
5. 女性は仕事を持たない方がよい
6. その他（具体的に：_____）

《全員の方にお聞きします。》

問 1 5. 女性が仕事を持ち続けていくうえで、障害と思われることは何ですか。
次の中から主なものを2つまで選んでください。

1. 家事や育児との両立がむずかしい
2. 家族の協力や理解が得られない
3. 育児休業や介護休業などの制度が不十分である
4. 企業が結婚・出産した女性を嫌う傾向がある
5. 企業が責任ある仕事を女性に任せない
6. 男性に比べて賃金が安く、職種も限られている
7. 保育施設の数や内容が十分でない
8. 高齢者などの介護との両立がむずかしい
9. 女性自身の仕事に対する自覚が不足している
10. その他（具体的に： _____）

（6）高齢化・福祉について

《全員の方にお聞きします。》

問 1 6. あなたは自分の老後について、どのような不安を感じていますか。
次の中から主なものを2つまで選んでください。

1. 配偶者に先立たれること
2. 生活費のこと
3. 面倒を見てくれる身寄りがいないこと
4. 自分や配偶者が寝たきりや病気になったときのこと
5. 自分の健康のこと
6. 話し相手がいらないこと
7. 住宅のこと
8. 就労の機会が減ること
9. 適当な趣味がないこと
10. その他（具体的に： _____）
11. 特に不安は感じていない

《全員の方にお聞きします。》

問 1 7. 家族等の介護は女性の役割となりがちですが、それについてどう考えますか。
次の中から1つだけ選んでください。

1. 当然だと思う
2. 改善すべきである
3. 問題はあるがやむをえない

(7) 配偶者等からの暴力(DV)について

*DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、一般的には「夫や恋人など親密な関係にある、又はあった男性から女性に対して振るわれる暴力」という意味で使用されることが多いようです。ただ、人によっては、親子間の暴力などまで含めた意味で使っている場合もあります。内閣府では、人によって異なった意味に受け取られるおそれがある「ドメスティック・バイオレンス(DV)」という言葉は正式には使わず、「配偶者からの暴力」、「夫(妻)・パートナーからの暴力」などという言葉を使っています。

《全員の方にお聞きします。》

問18. あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。

次の中からいくつでも選んでください。

1. 暴行を受けたことがある
2. いやがっているのに性的行為を強要されたことがある
3. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられたことがある
4. 何を言っても無視され続けたことがある
5. 交友関係や電話を細かく監視されたことがある
6. 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われたことがある
7. 大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある
8. 生活費を渡さないなど、経済的に押さえつけられたことがある
9. そのようなことはなかった

《問18で「1～8」のいずれかに答えた方にお聞きします。》

問18-1. 配偶者や恋人からの行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

1. 相談した
2. どこ(誰)にも相談しなかった

《問 18-1 で「2. どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。》

問 18-2. どこ（誰）にも相談しなかったのは、なぜですか。

次の中からいくつでも選んでください。

1. どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 相談先の担当者や相談者の言動により不快な思いをすと思ったから
6. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
7. 世間体が悪いから
8. 他人を巻き込みたくなかったから
9. そのことについて思い出したくなかったから
10. 自分にも悪いところがあると思ったから
11. 相談するほどのことでもないと思ったから
12. その他（具体的に： _____）

（8）男女共同参画社会について

《全員の方にお聞きします。》

問 19. あなたは次の用語についてご存知ですか。

項 目	知っている	言葉ぐらいは知っている	知らない
男女共同参画社会基本法	1	2	3
DV 防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）	1	2	3

《全員の方にお聞きします。》

問 20. あなたは男女共同参画社会の実現のために、行政（国・県・市）はどんなことに力を入れていくべきだと思いますか。

次の中から主なものを3つまで選んでください。

1. 男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う
2. 女性を政策決定の場に積極的に登用する
3. 各種団体の女性のリーダーを養成する
4. 職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う
5. 女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する
6. 男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する
7. 保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する
8. 学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
9. 女性の生き方に関する情報提供や交流・教育の場を充実する
10. 悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する
11. 各国の女性との交流や情報提供などの国際交流を推進する
12. 広報誌やパンフレットなどによる男女の平等と相互の理解や協力についてPRする
13. その他（具体的に： ）

■ 男女共同参画に関して、ご意見がございましたらお聞かせください。



アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

男女共同参画に関するアンケート調査結果報告書

平成 18 年 3 月

発 行：海津市

企画・編集：海津市企画部企画課

〒503-0695 海津市海津町高須 515

TEL：(0584) 53-1111